

七

天津英租界封鎖問題

1 封鎖実施に至る経緯

1462

昭和13年12月10日
在天津田中総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

天津英仏租界内の抗日策動を阻止するため
地日本軍が租界を包囲する鉄条網の構築準備
を開始について

付記 昭和十三年十二月三日付在本邦クレギー英

国大使より沢田外務次官宛半公信

日本軍が天津英仏租界より日本人撤退を命じ

た理由に関し注意喚起

天津 12月10日後発

本省 12月10日後着

第一一三三號(極秘)

往電第一〇七三號ニ關シ

最近英佛租界内抗日分子ノ策動再ヒ活潑ヲ加ヘ來レルニ鑑
ミ當地軍側ニ於テハ愈實效の租界包圍ノ必要アリト爲シ之
カ準備トシテ先ツ日佛租界境界線秋山街佛側歩道上ニ鐵條

網用「セメント」棒杭ヲ建立シ始メ居タルカ今直ニ鐵條網
ヲ張りテ交通ヲ制限スル等ノコトナク暫ク様子ヲ見ル積リ
ナル由右不取敢

(付記)

天津英佛租界問題

十二月三日附在京英國大使發次官宛半公信要譯

(昭和三、三、五 亞一)

拜啓陳者閣下ノ御記憶相成ル通り日本陸軍當局ハ九月一日
附ヲ以テ日本臣民ハ在天津英佛租界ヨリ撤退スヘキ旨ノ命
令ヲ發スルト共ニ其ノ理由トシ租界當局ハ「日本側カ友好
的關係ヲ維持スル爲接近スルニ對シ何等誠意アル態度ヲ」
示サスト稱シタリ是等手段ニ鑑ミ本使ハ九月二日附書翰ヲ
堀内次官ニ提出シ本使トシテハ日本陸軍官憲カ其ノ適當ト
思考スル此ノ種命令ヲ自國臣民ニ對シ發出スル權利ヲ有ス
ルヤ否ヤヲ云爲セサルモ誤解ヲ誘發シ根據ニ乏シキ言明ヲ

公表スルコトハ英國當局カ租界内ニ於ケル「テロ」犯人及其ノ他ノ不當ナル行爲ヲ抑制セントスル努力ヲ益々困難ナラシムルノミナルコトヲ申述ヘタリ本使ハ又堀内次官ニ於テ此ノ種報道カ事實ニ非サルコトヲ通報セラレンコトヲ希望シ次テ九月十五日附書翰ヲ以テ右要請ヲ繰返シ述ヘ申候本使ノ知り得タル所ニ依レハ英國大使館財務官(ホール・パッチ)カ北京ニ滯在中日本大使館參事官ハ同財務官ニ對シ英國官憲カ「事態ヲ一層能ク了解」セサル限り日本居留民ニ對シ天津英佛兩租界ヨリ撤退方命令スルト共ニ臨時政府ニ於テモ支那人ニ關シ同様ノ措置ヲ講スル様手配セサルヲ得サルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタリ更ニ又本使ノ承知スル所ニ依レハ本使ノ申出ニ拘ラス且在天津英國當局カ兩租界ノ中立性ヲ保持セントスル引續キノ努力ニ拘ハラス日本居留民ノ撤退ハ愈強化セラレ其ノ結果租界内日本居留民ハ八月一日一千名以上ナリシニ比較シ現在ハ唯五十名ヲ殘スノミトナリタリ此ノ如キ強硬手段ヲ執ルニ對シ何等ノ説明ヲ與ヘラレタルコト無ク又何故一時京奉鐵道支那人従業員ニ對シ英國租界ヲ撤退スヘキ旨ヲ強要シタルヤ將又稅關長ニ對シ稅關建物ヲ租界外ニ移轉スルコトカ必要トナルヤモ知レ

ストノ示唆アリタルヤニ對シテモ何等ノ説明アリタルコト無シ本使ハ反對ノ證據存在セサル限り是等ノ手段ハ在天津英國權益目標トスルモノニシテ且是等ノ手段ハ友好關係ノ存在ヲ最必要トスル場所及時期ニ於テ惡感情ヲ一層誘發セントスル目的ヲ有スルコト確カナリト推斷セサルヲ得ス本件ハ今ヤ焦眉ノ問題トナリツツアルモノト認メラルルニ付何等カノ御説明ヲ與ヘラルニ於テハ甚タ幸甚ト存候

敬 具

編 注 本文書の原文(英文)は省略。

1463

昭和13年12月13日

在天津田中總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界の境界におけるわが方検問の開始について

天津 12月13日後発
本省 12月13日夜着

第一一三七號

往電第一一三一號ニ關シ

軍側ニ於テハ十四日ヨリ日佛租界交通路トシテ殘サレタル山口、旭、芙蓉街及萬國橋北側ノ四箇所ニ於テ通行人ヲ檢束檢問スルコトナレリ但シ右ハ主トシテ支那人ヲ目標トスルモノニシテ日本、第三國人ハ此ノ限りニアラス又支那人モ現在市政府ヨリ發給シツツアル寫眞入身分證明書ヲ攜帶スル場合ハ右ニ準スル由尙老西開方面英佛租界出入路ハ當分閉鎖特一區方面ト英租界トノ通路ハ當分其ノ儘ト爲シ置ク趣ナリ

北京、上海へ轉電セリ

1464

昭和13年12月16日
在天津田代總領事より
有田外務大臣宛

天津租界に対するわが方特別警備計画につき報告

機密第一九一五號
(接受日不明)

昭和十三年十二月十六日

在天津日本總領事館

總領事 田代 重徳

外務大臣 有田 八郎殿

對英佛租界特別警備計畫ニ關スル件

當地駐屯軍ニ於テハ英佛租界内ニ根據ヲ構エ頻リニ我租界ニ潛入テ口行爲ヲ敢行シツツアル抗日テロ分子租界侵入防遏ノタメ租界境界線一帯ニ亘リ檢問檢索實施計畫中ナリシ處去ル十四日午前六時ヨリ一齊ニ施行シ當館警察官三十五名巡捕百名モ之ニ協力中ナルハ曩ニ電報ノ通りナル處右ニ對シ軍側ヨリ當館宛送付越タル「對英佛租界特別警備計畫」〔關所並ニ監視^(所カ) 衛兵服務規定^(編註二)〕並ニ「檢問檢索實施^(金務)」左記ノ如クナルニ付何等御參考迄此段報告申進ス

追而本規定ハ軍參謀長ヨリ特ニ極秘扱方申出アリタルモノナルニ付御含ミ迄

左 記

對英佛租界特別警備計畫

第一、總 則

一、本計畫ハ北支那方面軍司令部ニ於テ企畫セル「支那人及支那貨ノ英佛租界出入取締計畫」ニ準據シ第一百師團長ノ擔任スヘキ事項ヲ規定ス

二、本計畫實施ニ方リ師團長ハ所要ニ應シ防衛上ノ區處部隊ヲ使用ス又左記機關ハ師團ニ協力ス

天津特務機關、天津憲兵隊、茂川、多喜兩機關、日本

總領事館、支那側諸機關

三、本計畫ヲ實行スルニ方リ英佛軍若シ挑戰的態度ニ出ツルコトアラハ師團ハ斷乎之ニ應戰スルノ決意ト準備トヲ保有ス

四、本計畫ヲ實行スルニ方リ生スル外交交渉ハ方面軍司令部ニ於テ之ヲ處理シ師團ハ之ニ干與セス

第二、方 針

五、英佛租界内ニ蟠踞スル抗日共產分子ノ活動ヲ封止スル目的ヲ以テ英佛租界ト外部トノ交通ヲ制限シ關所ヲ設ケテ通行人及出入貨物ノ檢問檢索ヲ實施ス

第三、要 領

六、英佛租界ヲ包繞スル障礙物ヲ設置シ所要ノ個所ニ關所ヲ設ケ關所以外ハ交通シ得サラシム

七、英佛租界ニ通スル白河上ノ渡船場ハ全部閉鎖セシム

八、白河ヲ航行スル船舶ハ英佛租界外ニ停止セシメ所要ノ檢問、檢索ヲ實施ス

九、各關所及停船碼頭ニ於テ檢問檢索ヲ實施ス

十、檢問檢索ノ實施ヲ確實且容易ナラシムル目的ヲ以テ特定ノモノニ對シ寫眞附證明書ヲ交付ス

第四、陸上交通管制

二、障礙物及關所竝ニ監視所ノ設置要領附圖第一ノ如シ

三、關所及監視所衛兵ノ編成竝ニ其差出擔任附表第一ノ如シ

三、交通管制ヲ嚴守セシムル爲所要ニ應シ密偵ヲ使用シ又ハ住民ヲシテ密告セシメ違反者ノ檢舉ニ努ム

第五、水上交通管制

四、英佛租界ニ通スル白河上ノ渡船ハ總テ英佛租界對岸ニ抑留シ渡船場ハ全部閉鎖セシム

五、外洋船舶ハ入港ノ際總テ大連碼頭第一關所若ハ日本租界碼頭第一關所ニ停船シ支那人乗船又ハ陸揚ハ該岸ニ於テ實施セシメ當該關所ニ於テ檢問檢索ヲ實施ス

六、英佛租界ニ出入スル河用船舶ハ總テ大連碼頭第二關所若ハ日本租界碼頭第二關所ニ一旦繫留セシメ所定ノ檢問檢索ヲ實施ス

七、十四乃至十六項ノ實施ヲ監督スル爲水上警備隊ヲ置ク

其編成ハ附表第二ノ如シ

第六、檢問檢索

六、檢問檢索ノ目的ハ抗日分子共產黨員間諜等ヲ發見逮捕

スルト共ニ武器彈藥爆發物抗日共產圖書等ヲ發見押收スルニ在リ

九、檢問檢索ハ各關所ニ於テ行ヒ關所衛兵ハ憲兵ト協力シ支那側警務機關ヲ指導シテ之ヲ實施ス其實施要領ハ別冊關所衛兵服務規定ニ據ル

二、佛租界ニ通スル電車ハ往復共日本租界又ハ特三區内ニ停車セシメ乗客(貨物)ハ全部下車(卸下)シ檢問(檢索)終了後乗車(搭載)セシム

二一、自動車ハ英佛租界外ニ停メ檢査ス

二二、電車自動車及自轉車以外ノ車馬ハ英佛租界ニ出入スルヲ禁止ス

二三、各關所ニ於テ檢問檢索ヲ實施スル外憲兵隊長ハ支那側警務機關ヲ指導シテ北站、東站、西站ニ於テ之ヲ實施ス左記地點ニハ臨機檢問所ヲ設置スルコトアリ

土城、八里臺、楊柳青、楊村

二四、留置者及押收物件ノ取扱及留置所ノ設備ハ憲兵隊之ヲ擔任ス

(以下省略)

編注一 本文書は原本の写しであり、末尾に「關所並監視所衛

兵服務規程省略」と書かれていて、同規定は見当らない。

二 本文書の附図、附表はすべて見当らない。

~~~~~

1465

昭和13年12月16日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界でのわが方檢問に對し領事團が方面軍司令部參謀との懇談希望について

天津 12月16日後發

本省 12月16日夜着

第一一四二號

本官發北京宛電報

第三二八號

本官發大臣宛電報第一一三七號二關シ

本十六日米總領事館ニ於テ領事團會議開催(田中領事出席英、米、佛、伊各司令官同席)主トシテ英佛總領事ヨリ今回ノ措置ノ目的、實施期間、檢問所ニ於ケル外國人ノ取扱振(詳細郵報)等ニ付質問シタルニ付英佛當局ノ租界内抗日共產分子取締不徹底ナル結果最近其ノ活動著シク活潑トナ

リタル爲自衛上已ムヲ得サル次第及實施期間ハ結果ノ如何ニ懸リ今ヨリ豫斷シ得サル旨然ルヘク説明シ置キタルカ結局滿場一致ヲ以テ(一)天津ノ實情ニ付軍ヨリ definite statementヲ發表セラレ度キコト(二)領事竝ニ司令官ノ連席會議ヲ開催シ自由討議ヲ行フコト萬事圓滿ニ行クヘキニ付北京司令部ヨリ重安參謀ノ出席可能ナリヤ否ヤ照會方希望シタルニ付(一)ニ付テハ早速軍側ニ聯絡ノ上然ルヘク取計フヘキ旨(二)ニ付テハ主トシテ何ヲ討議セントスルモノナリヤト尋不見タルニ英總領事及司令官ハ(イ)今回ノ措置ノ目的(ロ)實施期間ハ特三區出入ニ關シ外國人ニ對スル制限(特三區ハ兵站基地ニシテ最近頻々タル放火ノ爲一般人ノ出入制限特ニ嚴重ヲ極メ居レリ)ノ三點カ主タルモノナリト答ヘタルニ付然ラハ特ニ連席會議ヲ開ク必要モナカルヘク今直ニ各司令官一緒ニ桑木兵團參謀部ヲ訪問シ意見ヲ交換セラレテハ如何ト勸メタル處兎ニ角北京司令部ノ意嚮ヲ照會願度シトノコトナリシニ付之ヲ承諾シ置キタリ

就テハ前顯(一)及(二)ニ付至急貴地司令部ニ御聯絡ノ上然ルヘク御取計相煩度ク何分ノ儀御回電アリ度シ(當地軍側トモ聯絡濟)

尙明十七日ヨリ英租界及特一區境界線ニ於テモ檢閲檢索開始ノ筈

大臣、上海へ轉電セリ

~~~~~

1466 昭和13年12月19日 在北京堀内大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

天津領事團の懇談希望に對する方面軍司令部
の対応振りについて

北京 12月19日後發
本省 12月19日夜着

第一八三〇號

本官發天津宛電報

第二二三號

貴電第三二八號ニ關シ

領事團會議ノ希望ニ對シテハ既ニ田中領事會議出席前重安參謀ト打合セ同領事力會議ニ於テ充分當方ノ意嚮ヲ説明シ居ル次第ニ付軍側トシテハ「デフイニツト、ステートメント」ノ發表ハ言質ヲ取ラレ爾後差支モ出ツル惧アリ(尤モ檢問時間等ノ布告ヲ出スコトハ差支ナシトノコトナリ)又

今更列席會議ヲ行フノ要モナカルヘク旁一應事態ヲ見送ル
コト然ルヘシトノ意嚮ナルニ付右含ニテ然ルヘク折衝アリ
タシ

大臣、上海へ轉電セリ



1467

昭和13年12月21日
在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題に關連して英仏總領事に対し中
国の新事態を認識し対日協力の積極的態度を
示すよう要望について

付記 昭和十三年十二月二十日付在本邦クレイギー

英國大使より沢田外務次官宛半公信

天津租界での檢問措置緩和方要請

天津 12月21日後発

本省 12月21日夜着

第一一五四號

本官發北京宛電報第三三〇號英佛總領事ト會談ノ際豫期ノ
如ク先方ヨリ租界問題ニ言及セルニ付本官ヨリ廣東、漢口
陷落シ支那ノ事態ニ一大變化ヲ來シタル今日英佛側力依然

トシテ舊套ヲ脱セサルハ極メテ遺憾ニシテ此ノ際新事態ニ
對シ積極的協力ノ態度ニ出ツルニアラサレハ到底空氣ハ緩
和セサルヘシト告ケタルニ佛總領事ハ例ニ依リ佛國側力新
政府ヲ未タ承認シ居ラサルコトヲ楯ニ取り議論ヲ始メタル
ヲ以テ今ヤ從來幾度カ繰返シタル此ノ種議論ヲ重ヌルノ要
ヲ認メス要ハ實際的見地ヨリ新事態ニ協力スルカ否ヤニ在
リ現ニ本官歸朝中耳ニシタル所ニ依レハ上海ニ於ケル英國
官憲ハ工部局問題等ニ關シ新事態ニ即應スヘク大分態度ヲ
改メ出シタルヤノ趣(在京中次官ヨリ御話アリタルニ付持
出シタリ)ナルカ北支ニ於テハ尙更其ノ要ヲ認ムヘキナリ
ト述ヘタルニ英總領事ハ御話ノ如キ上海ニ於ケル事情ハ承
知セスト述ヘ佛總領事ハ出來得ル限り協力ニ努メ居ル次第
ニシテ本日御話シセル現銀ノ問題又永ラク懸案トナレル電
話局問題モ天津市長トノ間ニ話合略成立シ唯字句ノ問題カ
殘レルノミ斯克折角努力シ居レルニ拘ラス日本軍カ今回ノ
舉ニ出テタルハ甚タ遺憾ニシテ右報道ハ既ニ歐米方面ニモ
逸早く傳ヘラレ結果ニ於テ日本ノ爲ニ決シテ利益ニアラス
何時モ申スコト乍ラ焦ラスニ藉スニ時ヲ以テスレハ萬事日
本側ノ希望スルカ如クナルコトト愚痴交リニ零シ居レリ依

テ本官ヨリ要ハ貴方ノ誠意カ實績ニ依リテ示サルルヤ否ヤ
ニシテ日本側トシテハ遺憾乍ラ其ノ實績ヲ認メ得ス抗日分
子取締ニ付テモ充分ナル協力ノ實ヲ認ムル能ハス現ニ最近
放火等ノ「テロ」行爲ノ頻發セルアリ軍側トシテモ遂ニ非
常措置ヲ執ルノ已ムナキニ至レルナリ其ノ結果「テロ」行
爲モ一時收マレリト述ヘタルニ兩總領事共事態緩和ニ付本
官ノ盡力斡旋ヲ切望シ引取レリ
北京、上海ニ轉電セリ

(付記)

天津英租界問題

十二月二十日在京英國大使發次官宛半公信要譯

(昭和一一、一二、一二、亞一)

拜啓陳者本使ハ日本陸軍官憲ノ行爲ニ依リ在天津英佛租界
カ嘗メツツアル困難ニ付テノ十二月三日附拙信ニ對シ閣下
ノ注意ヲ喚起致シ度存候本件カ焦眉ノ問題ナルニ鑑ミ右拙
信ニ對シ御回答ヲ接受スルコトヲ期待致シ居リ候處茲ニ再
ヒ書面ヲ差上クルハ單ニ英佛兩租界カ包圍セラレ英國臣民
ニ對シテハ旅券ノ提示ヲ要求セラレ居ルノミナラス租界ニ

入ルヘキ食糧品ノ供給ニ對シテ迄現ニ干涉行ハレ居ル爲ニ
有之候是等ノ得手勝手ナル手段ニ對シ日本陸軍當局ノ舉ク
ル理由ハ甚タ不充分ナリト認メラレ候處本使ハ是等ノ手段
カ日本政府ノ承認ヲ得居ルモノト信スルコト能ハス仍テ現
ニ行ハレ居ル峻嚴ナル措置ヲ緩和スル様訓令ヲ發セラレン
コトヲ期待致スモノニ有之候本書翰ニ對シ成ヘク速カニ回
答ヲ賜ハラハ幸甚ニ存候 敬 具

編 注 本文書の原文(英文)は省略。

1468

昭和13年12月23日

在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界での検問の打ち切り時期に関し桑本師
团长らと意見交換について

天津 12月23日後発

本省 12月23日夜着

第一一六二號(部外祕)

本二十三日桑本中將司會ノ許ニ參謀長、特務機關長、憲兵
隊長等各機關幹部小人数會合シ租界問題ニ關スル情報交換

竝ニ對策等ニ付協議會開催セラレタル席上本官ヨリ檢問開始ノ直接動機ニ付質問シタルニ桑木中將ハ最近放火等ノ「テロ」行爲頻出セル上十二月中旬ニハ臨時政府成立一周年等種々記念日ニ際シ抗日分子ノ不穩計畫等ノ情報入手シタルニ付抗日分子取締ノ爲ノ一時的措置(本月十八日頃ニハ打切ル考ナリシト言フ)トシテ急遽檢問ヲ開始シタル處其ノ後北京司令部方面ニ於テ租界問題諸懸案ノ解決促進ニ利用スヘキ旨ノ意嚮ヲ有シタル爲引續キ實施ノコトトナレリト述ヘタルニ付本官ハ租界問題諸懸案ノ經緯竝ニ歸任以來ノ對外折衝ヲ説明シタル上今や内外共ニ檢問カ何日迄續行セラルルヤニ付多大ノ關心ヲ有シ居ル處右打切時期ニ付若シ諸懸案ノ徹底の解決迄トナレハ中ニハ現銀引渡ノ如キ到底短時日ニ解決シ得サル問題モアリ相當長期間ニ亘ルコトヲ覺悟セサルヘカラサル處當初ノ目的カ抗日分子ノ取締ニアリトセハ右ノ點ニ關スル英佛側ノ態度改善ヲ切懸ニ打切ル時期モアルヘシト述ヘタルニ列席者モ同様ノ意見ニテ檢問開始以來「テロ」行爲モ終熄シ相當ノ效果アリタルヲ以テ豫テ反日的色彩アル英工部局巡捕長ノ更迭、英佛警察ニ日本人(己ムヲ得サレハ支那人)ノ聯絡員ヲ常駐セシムル

等主トシテ支那側ヲシテ内面的工作ヲ爲サシメ其ノ結果ヲ見テ適當ノ時機ニ檢問ヲ打切り(餘リ檢問制度長引クニ於テハ情性トナリ效果薄トナルヘシトノ意見モ出テタリ)將來更ニ必要ニ應シ何時ニテモ再開スルノ態度ヲ示シ置クコト必要ナリトノ意見ニ一致ヲ見タリ

北京、上海へ轉電セリ

1469

昭和13年12月26日

在北京堀内大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界の檢問解除に向け軍側が設定した目途について

北京 12月26日後発
本省 12月26日夜着

第一八五九號(部外祕)

本官發天津宛電報

第二二五號

大臣宛貴電第一一六二號ニ關シ

軍側トシテハ本件檢問ハ適當ノ時機ニ於テ打切ル意嚮ヲ有スルモ少クトモ此ノ際(一)排日抗日分子取締ニ關シ英佛側カ

一定ノ讓歩ヲ爲スコト(二)排日抗日犯人引渡ノ完了(三)中國交通兩銀行ノ検査並ニ聯合準備銀行員ノ立會ニ依ル現銀検査ヲ爲サシムルコト等ヲ目途トシテ打切ルコトト致度キ趣ナルニ付右御含ノ上此ノ上トモ御盡力願度シ
大臣、上海へ轉電セリ

1470 昭和13年12月30日 沢田外務次官より
在本邦クレギー英國大使宛(半公信)

天津租界英國当局が抗日策動の徹底取締と華北の新事態に即応した対日協力を実行しない
かぎり検問緩和の理由なき旨通報

付記 昭和十四年一月二十三日付在本邦クレギー

英國大使より沢田外務次官宛半公信

天津租界英國当局に対する日本側非難は根拠

なき旨反駁

(欄外記入)
拜啓陳者本月三日附貴翰ヲ以テ在天津英國租界ニ對シ帝國官憲ノ取りタリト謂ハル措置ニ關シ御申越相成更ニ本月二十日附貴翰ヲ以テ御追申相成閱悉致候

本件ニ關シ帝國政府ノ有スル情報ニ依レハ在天津帝國官憲

ニ於テ英國租界及佛國租界トノ交通ニ對シ一定ノ手段ヲ講シタルハ事實ナルカ右ハ最近再燃セル抗日犯罪行為ノ頻發ヲ豫防センカ爲執リタル緊急且已ムヲ得サル措置ニ有之、主トシテ日本租界及各特別區等ノ地域ニ不逞分子ノ潛入ヲ阻止スルコトヲ目的トシ居リ從テ例ハ貴翰ニ謂ハルル英佛租界ヘノ食料品ニ對スル干涉等ハ事實ニ非スト認メラレ候

抑々從來不逞支那人カ英佛租界ヲ濫用シテ單ニ治安ノ破壞ノミナラス一般的後方攪亂ノ策動ニ耽リ居ルニ對シ租界當局ノ取締徹底セス且又租界當局カ地方的官憲トシテ北支ノ新事態ニ即應スルノ態度ニ出ツルヲ拒否シ來リシコトハ帝國官憲ノ不滿且遺憾トシタル所ニシテ、是等ノ點ニ付テハ在天津帝國總領事ヨリ貴國官憲ニ對シ其ノ都度所要ノ申入ヲ爲シタルノミナラス去ル九月十九日堀内次官ヨリ貴大使ノ注意ヲ喚起シ次テ九月二十二日宇垣大臣ヨリモ詳細ナル説明アリタル次第ハ御記憶相成居ル通ニ有之候然ルニ其ノ後貴國官憲ノ態度ニハ殆ント改善ノ徵無ク却テ例ハハ抗日犯人ノ巨魁ノ引渡ヲ拒否シテ實際上租界ニ依リ此ノ種不逞分子ニ庇護ヲ與ヘツツアルカ如キハ決シテ貴我官憲間ノ友

好的關係ヲ維持スル所以ニ非ス此ノ如キ事態ノ存續スル限
リ之カ對策ノ一部トシテ現ニ帝國官憲カ已ムヲ得ス採リツ
ツアル手段ハ緩和セラルヘキ理由無シト被存候

御承知ノ通り帝國官憲カ貴國官憲ニ要望スル所ハ租界内ニ
於ケル一切ノ抗日策動ノ徹底の取締ハ勿論、北支ノ復興及
建設ニ對シ好意アル協力ヲ爲サルルニ在リ、其ノ具體的事
項ニ關シテハ現地貴國官憲ニ於テ承知セラレ居ル筈ナルニ
付今後は等ノ問題ヲ處理スルニ當リテハ一層ノ友好的態度
ヲ以テ臨ムコト可然旨適當ノ訓令發出方御配慮相煩度此段
回答申進候 敬具

昭和拾參年十二月卅日

外務次官 澤田 廉三

大不列顛國特命全權大使

「サー・ロバート・クレギー」閣下

(欄外記入)

陸海軍ト協議スミ

(付記)

天津英租界問題

一月二十三日附澤田次官宛在京英國大使半公信要譯文

(昭和四、二、一、亞一)

拜啓陳者本使ハ在天津英國租界ノ狀態ニ關シ十二月三十日
附閣下御書翰ヲ受領シ殊ニ英國官憲ハ從來租界内ノ「不逞
支那人」ニ對シ適切ナル取締ヲ爲サザリシトスル非難ニ依
リ驚キヲ禁シ得ザリシ次第第二候日本軍官憲ノ日本臣民ニ對
スル租界地域ヲ撤去スベキ旨ノ命令ニ關シ右命令發出當時
九月二日附及九月十五日附堀内閣下宛申述ベタル次第及日
本政府ハ本使ニ對シ英國官憲ノ所謂協力缺如ノ證據トナル
ベキ關係當局ニ通報セラルベキ何等カノ情報ヲ供與セラル
ベキ充分ナル機會アリタルモノナル旨閣下ニ申述ブル次第
ニ候本使往翰ニ對シ何等回答無キ次第第二モ鑑ミ本使ハ日本
政府ハ通報スベキ何等ノ情報モ有シ居ラズト推定スル外無
ク從テ本使ハ日本軍官憲ガ妥當ナリト認メラレタル將來ノ
措置ヲ了解スルニ苦シムモノニ候

閣下ハ「反日犯人ノ首魁引渡」ヲ英國官憲ガ拒否セリト述
ベラレ候右ハ似警吾ニ關スルモノト被存候本人ガ刑事犯罪
人タルコト又ハ刑事犯罪の活動ニ從事シタルの確ナル證據

ノ提出無キモ英國官憲ハ右ヲ留置シ外界トノ連絡ヲ斷チタル次第ハ御承知ノコトト存シ候本使ハ右ニ關シ十月十日既ニ堀内閣下ニ説明ヲ爲シ且十二月二十四日閣下ニ對シ日本領事館警察官ハ右ノ留置及隔離ガ嚴重ニ施行セラレ居ルコトヲ認定スベキ機會ヲ與ヘラレタルコトヲ示ス書類ヲ手交致候

故ニ英國租界當局ノ取締缺如ニ關スル非難ハ日本軍側ノ「テロリズム」ヲ防遏スル爲租界當局ノ協力缺如ガ現行措置ヲ必要ナラシメタリトスル主張ト共ニ根據無キモノニ候閣下ハ租界當局ノ「一層友好的態度」ヲ要請セラレ候日本政府ハ英國政府ガ日支兩國政府ニ對シ完全ナル友好關係ヲ有シ居ルヲ以テ日本官憲ハ租界當局ニ對シ一方ニ友好的ニシテ他方ニ非友好的ナルガ如キコトヲ爲ス樣理論上要求シ得ズ且日本官憲ノ要求シ得ベキ限度ハ租界當局ガ公[○]正ナル態度ヲ執ルベキコトニシテ之ハ英國官憲ガ出來得ル限りヲ盡シ居ルコト御了解相成ルモノト存シ候

右狀態ノ説明ニ依リ閣下ハ天津英國官憲ニ對スル非難ハ根據無ク且右説明ニ依リ在天津諸團體ト日本軍側間ノ關係ニ惡影響ヲ與ヘタル取締措置ヲ除去セラレル様日本軍當局ニ

對シ訓令發出セラレルモノト本使ハ信ズルモノニ候

敬具

編 注 本文書の原文(英文)は省略。

1471

昭和14年1月28日 在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界の検問打ち切りを現地軍検討中について

天津 1月28日後発
本省 1月28日夜着

第三六號(部外祕)

一月中旬桑本部隊二代リテ當地ニ駐屯セル本間部隊ニ於テハ引續キ檢問ヲ實施シ來レル處今同問題再檢討ノ爲本間中將主宰ノ下ニ廿七日(民間代表招致)、二十八日(參謀長、特務機關長、憲兵隊長並ニ本官、民團長參集)兩日會議ノ結果現在程度ノ檢問ニテハ所期ノ效果ヲ擧ケ難キノミナラス開始以來既ニ一箇月半ニ近ク些力情性トナレル感アリ他方支那商民ヨリハ舊正月ノ繁忙期ニ臨ミ一時的ニモ撤廢方切ナル要望アリ旁本間部隊トシテハ二月上旬自主的ニ檢問

ヲ一應打切り將來必要ニ應シテ何時ニテモ再ヒ實施スルノ
態勢ヲ示シ其ノ際ニハ今回ノ經驗ニ鑑ミ所期ノ目的ヲ達成
シ得ヘキ最モ效果的ノ方法ヲ講スヘク研究準備スルコトト
ナレリ尤モ右ハ北京司令部ノ指示ヲ待ツテ最終的ニ決定ス
ルコトトシ若シ北京ノ意嚮ニ依リ續行スルコトトナルモ實
施方法ニ付テハ再檢討スルコトトセリ
北京、上海へ轉電セリ

~~~~~

1472

昭和14年2月4日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

# 天津租界の日英間諸問題に関する駐華英國大

## 使との意見交換について

天津 2月4日後発

本省 2月4日夜着

第五〇號

滯津中ノ英國大使ノ求メニ應シ四日同大使ヲ往訪天津ニ於  
ケル日英間諸問題ニ關シ忌憚ナキ所見ノ交換ヲ致度シト前  
提ノ上對坐時餘ニ亘リ會談セシ要領左ノ通り  
一、先ツ抗日共産分子取締ニ關スル從來ノ經緯ヲ述ヘタル上

似警吾問題ニ言及シ同人ノ引渡未タニ實現セサル爲頗ル  
氣マツキ關係ニ在リ議論ハ兎ニ角トシテ當地日英間ノ空  
氣ヲ一新スル爲ニモ大局の見地ヨリ速ニ引渡方盡力アリ  
タキ旨日本側一般ノ不滿ノ實情ヲ訴フルト共ニ依頼シタ  
ル處英國大使ハ本件ノ經緯ハ能ク承知シ居ルモ本國政府  
カ主義上ノ問題トシテ引渡ニ同意セス唯同人ノ策動ヲ封  
スル爲引續キ拘禁スルノ他ナキ次第ナリ現ニ自分モ過日  
拘禁中ノ似警吾ヲ實見シタルカ同人ノ問題ノ爲日英間ニ  
氣マツキ關係ヲ持續スルコトハ面白カラサルニ付自分一  
己ノ所見ナルカ同人ヲ天津ヨリ他ニ移シ拘禁シ熱リヲ冷  
スコトハ如何ト持出シタルニ付日本側ニ於テハ既ニ斯ル  
情報ニ接シ神經ヲ尖ラシ居ル矢先ナルニ付若シ右カ實現  
スルカ如キコトアレハ由々シキ大事ナリ  
似警吾問題ニ對シテハ日本側トシテ大イニ不滿ナル隱忍  
自重英國側カ態度ヲ更メ引渡ニ應スルコトヲ期待シツツ  
アル狀況ナルニ付他地ヘノ移送ハ斷シテ不可ナリト強く  
反對シ置ケリ

二、次テ本官ヨリ英國警察職制問題ニ言及シ英人警察官ニ付  
テ兎角ノ疑惑ヲ有スル次第ニアサルモ支那人警察官中

ニハ抗日共產分子ト通謀ノ疑アル者アリトノ情報ニ接シ  
居リ殊ニ警察副署長李漢元ニ付テハ疑頗ル濃厚ニシテ日  
本側一般ノ間ニ不愉快ナル印象ヲ有シ居ルニ付日英關係  
改善ノ爲同人更迭方要望シタルニ大使ハ疑惑ノミニテハ  
何トモ措置シ難キニ付實證提供セラレタク若シ事實ナル  
ニ於テハ善處スヘキ旨答ヘタリ

三、<sup>(3)</sup>轉シテ現銀引渡問題ニ關スル日本側主張ノ根據ヲ説明シ  
租界内現銀封印ノ件ニ付テハ英佛側ト多少ノ步寄リヲ見  
タルモ其ノ條件中ニハ當方ノ要望ニ副ハサルモノアリ結  
局日本側トシテハ現銀ノ引渡ヲ飽迄求ムルノ他ナキ次第  
ナリト述ヘタルニ大使ハ日本側ノ主張ハ頗ル巧妙ニ作ラ  
レ居ルモ當方ニモ當方ノ主張アル譯ナルニ付目下ノ所如  
何トモシ難キ旨述ヘタリ進シテ本官ヨリ不法「ラヂオ」  
取締問題、排日教科書修正問題等ニ關スル從來ノ經緯ヲ  
説明シ善處方希望シタルニ大使ハ是等ノ問題ニ付テハ然  
ルヘキ方法ヲ見出スヘシト思考セラルルニ付「ヂエミソ  
ン」總領事トモ能ク打合セ置クヘキ旨述ヘタリ  
四、最後ニ英國大使ハ本官ノ忌憚ナキ所見ノ開陳ヲ謝シタル  
上英國側トシテモ出來得ル限り平和裡ニ問題ヲ處理シタ

キ方針ナルニ付日本側ノ要望ニ對シテモ事情ノ許ス限り  
之ニ應シタキ意嚮ナリト述ヘ明日北京ヘ赴クヘキ處最近  
迄北京方面ニ於ケル情報ニ依レハ自分ノ北京滯在中自分  
ニ對スル暗殺計畫アリトノコトナルカ別段氣ニ留メ居ル  
次第ニアラサルモ「ヂエ」總領事ヨリ貴官宛書面ヲ以テ  
不祥事ノ豫防方依頼シ置キタル筈ナリト語レリ

尙大使ハ午後十二時五十分天津發北京ニ赴キ十一日迄滯在  
北京ヨリ唐山ニ赴キ十四日迄同地滯在ノ上秦皇島ヲ經テ歸  
滬ノ豫定ナル由

北京、上海ヘ轉電セリ



1473 昭和14年2月5日 在北京堀内大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

### 天津租界の検問打切りを軍側決定について

北京 2月5日後発  
本省 2月5日夜着

第一二七號(部外極秘)

本官發天津宛電報

第一六號



貴官發大臣宛電報第三六號ニ關シ

當地軍司令部ニ於テモ先般本問部隊長、柴山機關長其ノ他關係者ヲ召集シ討議ヲ重ネタル趣ナルカ結局一應軍ノ威力ヲ示シタル次第ニテモアリ又機關ニ於テモ再考スルコト今後ノ交渉ニハ寧口便ナリトノ意見アリ且目下舊正モ迫リ居リ金融其ノ他ノ關係ヨリ一般支那人ノ便宜ヲモ考慮シ來ル八日頃一應本件検査ヲ打切り租界問題交渉ノ模様ニ應シ更ニ有效ナル措置ヲ執ルコトニ相成リタル趣ニテ軍側係官ヨリ右ニ關シ大使館側ノ了解ヲ求ムルト共ニ今後外務官憲ニ於テモ此ノ機ニ然ルヘク善處アリタキ旨申出ノ次第アリタリ尙本件ニ關シ本日山下參謀長赴津ノ上英佛側ニ對スル今後ノ措置及打切ニ對スル説明其ノ他詳細ニ付現地關係當局ト打合ヲ爲スコトナリ居レリ本件ハ右打合済ム迄部外極秘トセラレタシ

大臣、上海へ轉電セリ

1474

昭和14年2月15日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛

天津租界檢問実施の効果と交通制限の解除に

つき報告

機密第二〇六號

昭和十四年二月十五日

在天津

總領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣 有田 八郎殿

英佛租界境界線ニ於ケル檢問檢索一時緩和ニ關スル件  
本件ニ關シテハ本月八日附電報ノ次第アル處客年十二月十四日以來我カ軍部ニ於テハ英佛租界内ニ潛居暗躍シツツアル抗日共產份子ノ策動ニ對スル意味ニ於テ日佛境界線ニ半永久的ノ鐵條網ヲ張廻ラシ日本租界側ノ旭街、芙蓉街、山口街ノ三個所及特三區側ノ萬國橋竝ニ英租界特一區間ノ中街及泰安道、英國競馬場ノ七個所ヲ午前六時ヨリ午後十二時迄開放シ軍警協力シ嚴重檢問檢索ヲ實施シツツアリタルカ該地域ノ交通制限以來英佛租界内ニ居住セル邦人及同商社ハ續々兩租界外ニ移轉シ一般邦人ノ殘留スルモノ一月末ニ於テ僅々四十三戸百六十名ニ過キササル減少振ヲ示シ爲之兩租界内ニハ日本側ノ英佛租界内抗日份子ニ對スル積極的肅清工作行ハルモノトシテ種々謠言續出シ英佛側ニ於テ



ハ義勇隊ヲ組織スル外軍ノ增強、軍艦ノ派遣等アリ之カ爲一般外人方面ニ於テモ之ニ衝動ヲ受ケ婦女子ノ他地ヘノ避難者續出シタル模様ニテ兩租界内ノ居住者ハ交通制限ニ因リ極度ノ不便ヲ來シ兩租界内ノ諸物價ハ急騰シ華人商店娛樂場等ノ客足ハ急ニ減少シ左ナキタニ不況ニ在リタル昨今ノ市況ニ加ヘ舊年關ヲ控ヘ華商筋ニ於テハ頓ニ恐慌ヲ來シ華人有力者ハ寄々協議ノ上英佛租界當局ニ對シ良民保護ノ見地ヨリ抗日分子ノ策動取締ニ關シ日本側ニ協力方ヲ懇進シ外人團體ニ於テモ善後策ヲ協議スル等相當波紋ヲ起シツツアリタルカ他方抗日分子ノ策動ハ兩租界外ニ於テ極メテ消極的トナリ小規模ノ放火事件ヲ發生シツツアル程度ニ過キス從ツテ損害モ極少額ニシテ大体交通制限ノ效果ヲ認メツツアリタル次第ナル處本間部隊ニ於テハ昨八日午前零時ヲ期シ別添第一號佈告ノ通一齊ニ交通制限解除ヲ行ヒ從來配置セル軍隊及警察官ハ其儘引續キ配置ヲ爲シ容疑者ノミニ對シ隨時檢問檢索ヲ行フコトトシ別添第二號軍當局談ヲ發表セルカ軍部ニ於テハ交通制限解除ニヨリテ再ヒ抗日分子ノ活躍行ハルルニ至ラハ何時ニ於テモ從前ヨリモ一層嚴重ナル制限ヲ行フ豫定ナリ

尙英佛租界内居住一般市民ハ右制限解除ニヨリ一先ツ愁眉ヲ開キタルモノノ如ク市況ハ急ニ活況ヲ呈スルニ至レリ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先 在支大使 北京 上海 南京 漢口 青島

濟南 張家口

## 第一號

### 佈告

一、天津ニ於ケル抗日共產分子ノ策動ハ我檢問及交通制限ニ依リ一時小康ヲ見ルニ至レリ依テ二月八日十二時以降英佛租界ニ通スル左記道路ニ限り交通制限ヲ解除ス、但シ必要ニ應シ臨時檢問檢索ヲ行フ

### 左記

萬國橋、旭街、中街、山口街、芙蓉街、英國競馬場道、泰安道

二、右ノ如ク制限解除スト雖情勢ニ應シテハ隨時之ヲ復活スルノミナラス更ニ之ヲ強化シ或ハ他ノ有效ナル手段ヲ執ル

三、二月七日以前發行セル通行證ハ爾今無効トス

昭和十四年二月八日

大日本軍 天津防衛司令官

1475

昭和十四年 2 月 28 日  
在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

日本軍による天津英仏租界周囲への高圧線付  
き鉄条網架設を英仏側抗議について

天津 2 月 28 日後発  
本省 2 月 28 日夜着

第一〇三號

本二十八日佛總領事及英首席領事本官來訪今般日本軍ニ於  
テ英佛租界周圍ニ高壓線附鐵條網ヲ架設セル件ニ關シ嚴重  
ナル抗議文ヲ提出スルト共ニ右架設ノ理由如何ヲ問ヘルニ  
依リ本官ヨリ前回ノ檢問解除ニ關スル布告ニモ示サレタル  
如ク英佛當局ノ抗日分子取締ニ誠意ヲ缺キ徹底セサル限り  
何時ニテモ更ニ嚴重ナル包圍ヲ實施シ抗日分子ノ策動ニ備  
ヘ得ル樣準備シ居ルニ過キササル旨ヲ答ヘ日本側トシテモ決  
シテ事ヲ好シテ爲シ居ル次第ニアサルニ付從來ノ當方ノ  
申入ニ對シ積極的ニ協力ノ誠意ヲ示スニ於テハ問題ノ緩和

ヲ計リ得ヘシト述ヘタル處英佛租界側ニ向ツテハ高壓線カ  
危険防止ノ設備ナク非人道問題ナリ等ト頻リニ「コンプレ  
ーン」シ居リタリ  
北京、上海、漢口へ轉電セリ

1476

昭和十四年 3 月 14 日  
在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

四月末までに天津英仏租界当局が抗日活動家  
の取締に誠意を示さなければ嚴重な檢問檢索  
を實行するとの軍側意向について

天津 3 月 14 日後発  
本省 3 月 14 日夜着

第一六〇號(部外祕)

軍側ニ於テ英佛租界周圍ノ鐵條網ヲ一層強化スルト共ニ從  
來ノ一時的檢問檢索所ヲ煉瓦造ノ半永久的設備ニ改造シタ  
ル次第ハ往電第一〇三號及第一〇八號ノ通りナル處軍側目  
標ハ一二英佛租界内抗日共產分子ノ徹底的取締ニ在リテ最  
近ノ空氣ハ右目的達成ノ爲英佛租界當局ニ對シ飽迄是等反  
日分子ノ逮捕引渡ヲ要求スルモ似警吾問題ノ如ク引渡ヲ肯

セサルニ於テハ租界外追放(似警吾ノ場合當初英總領事ハ追放シ日時場所ノ内報ハ絶對ニセスト主張シタル爲我方ノ嚴重ナル抗議トナリ遂ニ倫敦ニ請訓ノ結果追放セサル代リニ引渡モセス工部局警察署内ニ事態終了迄留置シ置クコトトナレリ客年往電御參照)モ已ムヲ得ス但シ極力日時場所等ヲ内報セシムル様工作ストノ建前ニテ英佛當局ノ誠意アル協力ヲ要求シ四月末迄(軍側ニテハ五月迄ニ北支治安工作ニ目鼻ヲ付ケタキ希望ヲ有ス)效果ノ有無ヲ驗シタル上遂ニ效果ナシト認メタル場合ハ已ムヲ得サルニ付租界内抗日分子ノ逮捕引渡、工部局警察ニ若干名ノ邦人顧問乃至親日支那人傭聘方書面ヲ以テ要求シ聽カサル場合ハ直ニ租界周圍ノ鐵條網ヲ電化シ人及物ニ及フ極メテ嚴重ナル檢問檢索ヲ開始セントスル意嚮ナルカ如シ御參考迄  
北京、上海、漢口ヘ轉電セリ

1477

昭和14年3月16日  
在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題に関する仏国側対日態度の軟化  
を窺わせる同国代理大使の内話について

第六九三號

森島參事官ヨリ

上海 3月16日後発  
本省 3月16日夜着

佛代理大使北支旅行ヨリ歸來セルニ付十五日懇談セル處同代理大使ハ特ニ北支方面ノ日佛關係ニ關シ種々苦情ヲ述ヘ居タルカ日本側ニ對スル佛當局ノ協力ノ點ニ關シ

佛トシテハ主義原則ノ問題ニ觸レス且先般漢口佛租界手入ノ際日本憲兵カ佛官憲ト協力シタル場合佛領事ハ日本憲兵ノ關與ヲ祕シタルニモ拘ラス日本側通信カ露骨ニ之ヲ報道シタルコトアリタルカ右ノ如ク表沙汰ナラサル限り出來得ル限り日本側ト協力スル方針ニシテ天津租界内銀封印問題(北京發天津宛電報第二二七號御參照)ニ付曩ニ田代總領事ヨリ日本總領事館代表者ノ立會方申入アリ其ノ後更ニ同總領事ヨリ陸軍側代表者ノ立會方希望アリタルカ自分トシテハ前者ハ勿論差支ナク後者ハ平服ニテ立會ハルルナラハ默認スル様致度キ方針ナリト内話セルニ付本官ヨリ天津ニ於ケル日佛間ノ協力ヲ更ニ一層具體化セシカ爲佛租界ノ抗日分子乃至共產分子等ノ引渡ヲ實行シテハ如何左スレハ天津

方面ノ日佛關係改善ニ資スルコト大ナルヘシト誘ヒタル處  
同大使ハ日本側限リノ獨立ノ行動ハ認メ得サルモ日本側ヨ  
リ確證ヲ御提示アラハ租界側ニ於テ捜査及其ノ他適宜ノ措  
置ヲ執ルヘク其ノ際犯罪ニ付確證ヲ得レハ佛租界ノ治安ヲ  
害スル者トシテ引渡シ又ハ追放スルモ可ナリト内話シ從來  
屢次ノ會談ニ於テ佛租界ノ中立性ヲ盾ニ取り引渡又ハ追放  
ヲ主義上拒否シ來レル佛從前ノ態度ニ比シ著シキ變化ヲ來  
シ居レリト認メラレタリ

次テ同代理大使ハ先般漢口佛領事ヨリ同地佛租界内ノ交通  
銀行ノ建物ニ關シ日本側ニテ使用シタキ旨申入アリタル趣  
ニテ請訓越シタルニ付自分トシテ主義上ノ問題トスルコト  
ヲ避ケ大使館側ニ對シ何事モナカリシ建前ノ下ニ同地限リ  
ニテ措置方指圖シ置ケリト述ヘタリ

右青天白日旗掲揚禁止等ニモ關聯シ御參考迄  
北京、天津、漢口ハ轉電セリ

1478

昭和14年 4月 4日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界取締問題で英国側が誠意ある対応を

とるようピゴット少將へ要請について

天津 4月4日後発

本省 4月4日夜着

第二二三號

貴電合第五八八號ニ關シ

「ピゴット」少將ハ三日來津四日本官來訪現地ノ困難ナル  
日英關係ノ眞ノ原因ヲ探究スル爲來津シタル旨ヲ述ヘ本官  
ノ忌憚無キ意見ヲ求メタルニ付英國側カ北支ノ實情ヲ認識  
セス常ニ租界ノ中立乃至臨時政府不承認等ノ理論ニ拘泥シ  
租界内抗日共産分子ノ取締ニ效果アル協力ヲ爲ササル爲遂  
ニ今日ノ如キ事態ニ立至リタル次第ヲ似警吾問題等ノ例ヲ  
舉ケ詳細説明シタル上英國側ニシテ似ノ引渡ヲ手始メニ租  
界内抗日共産分子ノ逮捕引渡(引渡不能ノ場合租界外ニ追  
放シ日時場所等ヲ内報スルコト)ヲ承諾シ英租界工部局警  
察ニ日本人顧問若クハ聯絡員及日本側ノ推薦スル支那人幹  
部警察官ヲ採用スル等充分協力ノ誠意ヲ示スニ於テハ租界  
境界線ニ於テ檢問檢策ヲ行フノ必要モ無カルヘキ旨述ヘタ  
ル處「ピ」ハ自分ハ武官タル地位以上ニ或程度ノ「インフ  
ルエンス」ヲ持チ居ルニ付英國總領事トモ打合ノ上出來得

ル限り日本側ノ要望ニ副フ様盡力スヘク尙之カ爲ニハ日本側ニヨリ英國ノ輿論ヲ幾分ニテモ緩和スルカ如キ「ゼスチユア」(例ヘハ太古洋行ノ白河渡船復活、P、T「タイムス」ノ解禁等アラハ工作上極メテ好都合ニテ然ル時ハ日本側ノ要望モ何トカシテ實現セシメ得ルヤノ口吻ヲ漏ラシタリ尙「ピ」ハ明五日本間部隊長ヲ訪問ノ筈  
北京、上海へ轉電セリ

1479

昭和14年4月5日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津英租界内での捜査協力に関する本間師団  
長とピゴット少将との会談内容報告

天津 4月5日後発

本省 4月5日夜着

第二二四號

往電第二二三號ニ關シ

本五日「ピゴット」少將ハ本間中將往訪租界問題ニ關シ意見ノ交換ヲ爲シタル際同中將ヨリ英界内不逞分子ノ捜査逮捕ノ實績ヲ擧グル爲隨時私服ノ日本警察官若ハ憲兵ヲ同租

界内ニ入レ英側警察ニ協力スルコトシ不逞分子逮捕ノ場合英側ニテ引渡不能ナルニ於テハ日時場所等ヲ日本側ニ内報シ租界外ニ追放スルコトトシテハ如何ト提示シタルニ「ピ」ハ日本側ニ於テハ何ノ位ノ人員ヲ英界内ニ入レタキ希望ナリヤト尋ネタルニ付同中將ハ夫ハ個々ノ場合ニ依リテ異ルヘク細目ハ憲兵隊長ニ就キ承知セラレタキ旨答ヘタル趣ナリ

本間中將ト會談後「ピ」ハ本官ヲ來訪シ會談ノ内容ヲ通報スルト共ニ昨夜「ハーバート」首席領事ヲ初メ英工部局關係者ト晚餐ヲ共ニシ懇談シタル結果本官所見ノ内英工部局ニ日本人連絡員ヲ設置スル件ニ付テハ各方面共異議ナキ模様ニテ租界問題解決ニ第一歩ヲ踏出シ得タル次第ナリト語レリ

尙「ピ」ハ明六日朝北京ニ赴キ杉山大將ニ敬意ヲ表シタル上同夜歸任引續<sup>(津)</sup>キ當地滞在ノ上八日カ九日頃歸京<sup>(兩)</sup>シタキ旨述ヘタリ

北京、上海へ轉電セリ

1480

昭和14年4月10日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津海關監督に任命された程錫庚が天津英租界内で殺害された旨報告

第二二八號

天津 4月10日後発  
本省 4月10日夜着

前當地聯銀支店長程錫庚(往電第一九九號溫世珍ノ後任トシテ天津海關監督ニ任命セラレタルモ未タ就任セス)昨九日夜英租界映畫館「グランド」ニ於テ映畫觀覽中兇漢二狙撃セラレ即死シ隣席ニ居合シタル露國人及瑞西人之ヲ抑ヘントシ兩名共又狙撃セラレ一名ハ即死一名ハ重傷ヲ負ヒタリ犯人ハ逸早く逃走セル趣ニテ目下行衛嚴探中  
北京、上海へ轉電セリ

1481

昭和14年4月10日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界工部局への日本人顧問採用決定など  
対日協力に関するピゴットの言明について

第二三〇號

往電第二二三號ニ關シ<sup>(1)</sup>

天津 4月10日後発  
本省 4月10日夜着

六日「ピゴット」ハ北京ニ赴キ杉山司令官ト約四十分ニ亘リ租界問題等ニ付會談ノ後憲兵司令部幕僚ニ面會挨拶ヲ交ハシテ歸津七日柴山特務機關長及村野憲兵隊長ヲ訪問租界問題ニ付意見ヲ交換セルカ憲兵隊ニ於テハ英租界内抗日共產分子ノ活動狀況ニ付其ノ組織系統竝ニ犯行ニ使用セル時計仕掛爆彈等證據物件ヲ示シテ詳細説明ヲ與ヘタル結果「ピゴット」ハ我方カ租界内不逞分子ノ逮捕引渡方要求スルハ決シテ無理ナラサル所以ヲ良ク了解シ英國側ノ善處方極力斡旋スヘキ旨述ヘ居タル趣ナリ次テ八日本官ニ於テ本間中將及「ピゴット」「ジェミソン」竝ニ「ハーバート」ヲ茶會ニ招待セル際本間中將ヨリ主トシテ「ジェ」ニ對シ時餘ニ亘リ英工部局ニ於ケル日本人顧問採用及抗日共產分子ノ共同調査、逮捕竝ニ引渡方等ニ付縷々我方意嚮ヲ説述セルニ對シ「ジェ」ハ充分考慮シ置クヘキ旨答ヘテ引取りタルカ

同日「ハーバート」宅ニ於ケル晩(餐?)ノ席上「ピゴット」ハ本官ニ對シ顧問ノ件ハ既ニ工部局ニ於テ採用ノコトニ決定シ(候補者トシテ我方ヨリ前駐屯軍通譯官中澤コウ助ヲ推薦ノ豫定同人ハ目ト Adviser of the Associated British Committee on the Japanese Affairs(天津英國各機關聯合委員會顧問)ナル名目ニテ英租界内ニ事務所ヲ持チ活躍中)タルニ付近々ノ内ニ實現ノ運ヒトナルヘキ旨及抗日共產分子ノ逮捕引渡ハ兎モ角是等不逞分子ノ租界外追放(日時竝ニ場所等豫メ我方ニ内報ノ上)ハ何トカシテ實現シ得ルニアラスヤト思考セラルル旨内話スル所アリタリ「ピゴット」ハ九日夜行ニテ朝鮮經由歸朝ノ途ニ就ケルカ在津中寸刻ヲ惜ミテ各方面ト接觸シ日英間困難ナル諸問題ノ原因除去方ニ付眞摯熱誠ナル努力ヲ續ケタルハ我方齊シク之ヲ認め居ル所ナリ(此ノ點「ピ」ハ十二日澤田次官晩餐ニ招待セラレ居ル由ナルニ付次官ヨリ同人ニ然ルヘク御傳ヘアリタシ)

北京、天津へ轉電セリ

1482

昭和14年4月14日  
在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

程殺害事件における日英共同捜査を英国側承

諾ごころ

第二三七號

天津 4月14日後発  
本省 4月14日後着

往電第二三〇號ニ關シ

英工部局ニ於ケル日本人顧問採用ノ件ハ我方ヨリ私信ノ形式ヲ以テ「ジエミソン」ニ採用方申入レ先方ヨリ應諾ノ回答ヲ寄越スコトニ打合セ昨十三日申入ヲ了セリ(往復文書郵送)

一、抗日共產分子ノ共同捜査逮捕ノ件ハ十日英國側ヲ説得ノ結果程暗殺事件ニ付テハ先方ヨリ我憲兵隊ノ協力援助ヲ求ムルコトトナリ十一日右依頼ノ公文(原文郵送)ヲ送付越セリ

尙右犯人竝ニ關係者ハ逮捕次第我方ニ引渡スコトニ了解濟

一、其ノ他ノ抗日共產分子ニ付テハ引渡モ租界外追放ノ際ノ

内報モ不可能ナルカ逮捕ノ際武器等發見シタル時ハ引渡  
ス建前ニテ倫敦ニ請訓スヘク倫敦ハヨモヤ引渡ヲ拒絶ス  
ルカ如キコトナカルヘシトテ我方ノ入手セル情報ニ基キ  
兎ニ角共同捜査逮捕ヲ現實ニ進メ引渡等ノ點ニ付テハ  
個々ノ場合ニ付更ニ協議スル方實際的ナラスヤトノ口吻  
ヲ洩ラシ居レリ此ノ點我方要求貫徹方一層努力スヘキモ  
右不取敢

北京、上海へ轉電セリ

1483

昭和14年4月19日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 天津英租界での日英共同捜査により程殺害事

#### 件の容疑者検挙について

第二四四號

往電第二二七號ニ關シ

十四日我憲兵隊ハ英國側ト打合ノ結果十五日午前六時將校  
以下憲兵七名通譯三名英國側ノ捜査ニ共同セルカ英國側ハ

天津 4月19日後発  
本省 4月19日夜着

署長以下巡捕七十名指導官十二名探偵三十名ヲ以テ英界十  
四號路恆裕里地區其ノ他三箇所(以上三箇所ハ憲兵隊側ノ  
情報ニ基ク)ヲ約二時間半ニ亘リ一齊檢索シタルカ具體的  
ノ收穫ナカリキ次テ十七日第二回共同捜査ヲ實施我方ヨリ

將校以下憲兵四名通譯四名英國側署長以下六十名(五小隊)  
參加其ノ結果英界張莊大橋六號ニテ王文科ナル者ヲ逮捕目  
下工部局ニテ取調中同人ハ「モーゼル」三號拳銃一及彈藥  
百發ヲ所持シ居タル由尙當日憲兵隊側ノ情報ニ基キ共產第  
八路軍系「テロ」團容疑者二名ヲ取抑ヘ目下工部局ニテ取  
調中ナルカ物的證據ナキ爲之カ引渡方ニ付對策考究中ナリ  
第三回共同捜査ハ不日實施ノ豫定以上二回ニ亘ル共同捜査  
ニ於テハ英國側ノ態度ハ極メテ熱心且好意的ニ見受ケラル  
ル趣ナリ

右不取敢御參考迄

上海、北京へ轉電セリ

1484

昭和14年4月26日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 程殺害事件の容疑者に対する日本側取調べを



在天津英國總領事が独断で容認について

天津 4月26日後発

本省 4月26日後着

第二六〇號

往電第二四四號ニ關シ

憲兵隊ニ於テハ二十二日更ニ第三回共同捜査ヲ行ヒタル結果程暗殺事件容疑者支那人數名ヲ逮捕シタルカ英國側ハ何等證據ナキヲ理由トシ之カ引渡ハ勿論訊問其ノ他調査ノ爲日限ヲ附シ我方ニ貸與スルコトヲモ拒否ノ態度ニ出テタルヲ以テ二十四日午後四時ヨリ我方最後の態度決定ノ爲各關係機關會合ノ手筈ヲ定メタル上英國側ニ對シ容疑者ヲ貸與シ得ルヤ否ヤ三時迄ニ回答方強硬ニ申入置キタル處漸ク五時過(既ニ會議中)英國側ヨリ明日正午迄待タレタシト電話越シタリ次テ二十五日正午英總領事本官ヲ來訪熟慮ノ結果「カー」大使ニモ請訓セス獨斷ニテ容疑者一同ヲ一時憲兵隊ニ貸與スルコトニ決シタルカ四十八時間以内ニ返還ノコト、拷問ニ掛ケサルコト、之ヲ以テ先例ト爲ササルコトノ三條件ヲ附シタシト述ヘタルニ付軍側トモ協議ノ上英國側ト折衝ノ結果我方ヨリ五日以内ニ返還ノコト拷問ニ掛ケサ

ルコト將來ニ關シテハ個々ノ場合ニ付協議スヘク英國側ハ京津地方治安<sup>(維持)</sup>ノ見地ヨリ今回ト同様凡ユル考慮ヲ拂フヘシトノ趣旨ノ公文(郵送ス)ヲ發出シ直ニ容疑者ヲ憲兵隊ニ引取り來レリ尙英國側ヨリ右ハ現地限りノ取計ナルニ付新聞ニ發表セサル様依頼アリタルニ付御含置キアリタシ北京、上海ヘ轉電セリ



1485

昭和14年5月5日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

臨時政府警察当局への程殺害事件容疑者の引渡しを英國側拒絶について

天津 5月5日前発

本省 5月5日前着

第二八〇號

往電第二六〇號ニ關シ

當方ニ於テハ本件犯人ノ返還期日タル三十日朝英國側ニ引渡前犯行場所タル「グランドシアター」前ニ於テ英國側「ハーバード」首席領事、「デニス」署長及「グリーンズレー」特察長、日本側田中領事及太田憲兵隊特高課長立會ノ

下ニ實地檢證ヲ爲サシメタル處犯人ハ自供通り議場前ニ見張リシ居タル犯行模様ヲ再現スルニ依リ英國側ニ於テモ本件犯人カ程暗殺事件關係者ナルコトヲ確認シ憲兵隊ヨリ本件聽取書ヲ送付アリ次第直ニ支那側ヘ引渡スヘキ旨言明セルカ夫レニモ拘ラス支那側ヲシテ引渡ヲ要求セシメルヤ本件犯人等カ其ノ後英國工部局ニ於テ憲兵隊ニ於ケル自供ヲ全部覆ヘシタルコト及憲兵隊ニ於ケル自供中ニ信スヘカサル偽虛ノ點二箇所アルヲ理由トシテ殆ト引渡ヲ肯セサル態度ニ出テ來レルヲ以テ當方ニ於テハ再三其ノ不當ヲ指摘シ至急無條件引渡方折衝ニ努メタルモ英國側ニハ何等反省ノ色ナシ仍テ五日午前軍側各機關ト共ニ之カ對策協議ノ筈右不取敢

上海、北京へ轉電セリ

1486

昭和14年5月8日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

容疑者引渡し問題に関し英國の対応次第では  
檢問檢索の実施など有効手段を講じること  
を  
軍側と協議決定について

第二八四號

往電第二八〇號ニ關シ

五日軍側ト合同會議ヲ開キタルカ最惡ノ場合採ルヘキ強力手段ニ付軍中央側ノ意嚮モ未タ判明セス旁或程度迄交渉ノ餘地ヲ殘シ置ク方總テニ好都合ナル點ヲモ考慮シ先ツ言論機關ヲ動員シテ英國側ノ常ヲ鳴ラサシムルト共ニ其ノ出様如何ニ依リテハ我方ハ斷乎強行手段ニ出ルノ決意アルヲ仄カシ英國總領事ノ反省ヲ求メ尙效果ナキ場合ハ人及物ニ及フ檢問檢索ヲ實施スル等有效適切ナル手段ヲ採ルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ

八日英國總領事ハ本件ニ關スル新聞記事ヲ見テ本官ヲ來訪種々辯明ニ努メタルカ就中四日同人ヲ往訪セル溫天津市長祕書トノ會談ヲ引用シ電話局問題解決ノ遲延ハ寧ロ日本側ニ其ノ責アリ李漢元ノ免職ニ付テハ李カ抗日分子ヲ庇護セル實證ナキ限り不可能ナル旨及程暗殺犯人ト認メラレ居ル本件藍向隆外三名ノ引渡ニ付テハ何等之ヲ拒否スル次第ニアラス唯彼等カ果シテ程暗殺事件ニ關係アリヤ否ヤ疑問ナ

天津 5月8日後發  
本省 5月8日夜着

ルヲ以テ何等カ提示ヲ希望シ居ル次第ナリ等ト陳辯シ藍以下ノ引渡方ニ付テハ大使及倫敦ニ請訓シタルモ未タ回訓ニ接セサル旨述ヘ居リタリ

右ニ對シ本官ヨリ逐一當方ノ前回主張ヲ述ヘタル上殊ニ程暗殺犯人一同カ日本軍人狙撃事件ニ關係アル點ヲ強調シ軍ハ勿論一般輿論モ度重ナル英側ノ抗日分子庇護的態度ニ憤激シ居リ日本内地輿論ノ動向ニモ知ラルル通り租界問題ヲ重大視シ居ル折柄英側ノ出方如何ハ頗ル機微ナル影響ヲ與フヘキ旨ヲ述ヘ猛省ヲ促シ置ケリ

1487

昭和14年5月25日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

容疑者引渡し問題の圓滿解決に向け在本邦英  
国大使らと折衝方意見具申

第三一九號

往電第三〇四號ニ關シ

十九日英國軍參謀「デラメン」少佐急遽北京出張ノ本間司

天津 5月25日後発  
本省 5月25日夜着

令官ヲ往訪東京「ピゴット」少將ヨリノ「アージエント、メツセーヂ」ヲ傳達セル趣ノ處右「メツセーヂ」ハ本間中將ノ私信ニ答ヘ「ピ」カ東京ニ於テ本件圓滿解決方努力中ナルヲ傳ヘタルモノナル由ナルカ其ノ際「デラメン」少佐ハ「カー」大使ヨリ「ジュミソン」總領事ニ對シ本件犯人不引渡ノ訓令アリタルニ付「ジュ」ハ改メテ本國政府ニ之カ引渡方請訓シ又在東京英當局ニ於テモ側面ヨリ本國政府ニ對シ之カ引渡方極力盡力中ナル旨内話シタル趣ナリシニ依リ二十二日本官英總領事ヲ往訪右ニ關シ質問セルニ「カー」大使カ倫敦ニ具申セル意見ハ轉電越セルモ何等回訓ニ接シ居ラス而シテ右意見ノ内容ハ今申上ケ兼ヌル旨答ヘタルト共ニ本件ハ何レ圓滿解決ヲ見ルモノト自分ハ樂觀シ居ル旨述ヘ居タリ就テハ英側ノ回訓延引ノ爲當地ノ空氣惡化シツツアル折柄東京ニ於テモ「クレーギー」大使及「ピゴット」少將ヲ通シ本件圓滿解決方本國政府ニ勸説セシムル様御取計相成度ク當方トシテハ假令本件カ希望通り解決スルトモ將來此ノ種ノ問題ヲ繰返ササル様此ノ際何等根本的解決ヲ講スルノ要アリト認め居ル處此ノ點改メテ電報スヘキモ右不取敢

北京、上海へ(轉電セリ)

1488

昭和14年5月27日

有田外務大臣より  
在天津田代総領事宛(電報)

容疑者引渡しにカー駐華英国大使が反対して  
いるとの情報通報

第一六四號

貴電第三一九號ニ關シ

本省 5月27日後9時0分発

二十六日「クレイギー」ノ島ニ内話スル所ニ依レハ「カー」ハ英國警察當局カ證據不十分ト認メ居ル本件容疑者ヲ支那側(即チ日本側)ニ引渡スコトハ人道上能クスル所ニアラストノ理由ニテ「ジェーミソン」ノ請訓ヲ斥ケタル由ニテ「ク」及「ピゴット」ハ引渡承認方々本國外務省及陸軍省ニ電報セルモ何分ニモ「カー」ノ管轄ニ屬スル事項ナレハ本件ニ關スル限り現地英國警察カ犯罪事實ニ付満足スルニアラサレハ引渡實現ハ困難ナルヘシ「ク」ハ「ジェーミソン」ノ報告ニ依レハ「デニス」ハ本件容疑者ヲ犯人ト斷定スルニハ證據不十分ト認メ居ル旨述ヘタリ但シ若シ

日本側カ引渡後ノ容疑者ノ生命ヲ保障セラルルニ於テハ解決容易ト成ルニアラスヤト思考ス尤モ「カー」カ二十八日上海ニ歸任セハ「ジェー」ヨリ「今後租界内ニ於テアラユル反日行爲ヲ實施シ又ハ計画シタル者ハ權限アル當局(支那人ニ付テハ支那側)ニ引渡サルカ又ハ英國租界ヨリ放逐セラルヘシ」トノ趣旨ノ布告ヲ出スコトト成リ居ルニ付將來類似事件發生ノ際ニハ問題ナカルヘシトノコトナリ(右出所ハ貴官限りノ御含トセラレタシ)

北大及上海へ轉電セリ

1489

昭和14年6月1日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

容疑者引渡しに關シ英國側に六月七日正午ま  
でに回答方要求について

第三二七號

往電第三一九號ニ關シ

天津 6月1日後発  
本省 6月1日夜着

「カー」大使歸滬後モ何等音沙汰ナキヲ以テ本間司令官ハ

二十九日英軍參謀「デラメン」少佐ヲ招致、本官ハ三十日「ヂエミソン」ヲ徵シテ督促シタル處双方共前言ヲ繰返スノミニテ何等事態ノ進展ノ期待シ得ル模様ナカリシ爲本間中將ヨリノ依頼モアリ三十一日田中領事ヲシテ口頭ヲ以テ六月七日正午迄本件犯人引渡ノ有無回答方、若シ回答ナキ場合ハ引渡ヲ拒否セルモノト認ムル旨申入レシメタルカ英側ニテハ當方申入ヲ直ニ本國政府ニ電報セル由北京、上海ヘ轉電セリ

1490

昭和14年6月6日

有田外務大臣より  
在天津田代總領事宛(電報)

容疑者引渡し拒絶および将来におけるテロ  
犯人は在天津英國總領事の判断で引渡しに依  
じるなどクレギー英國大使通報について

付記 昭和十四年六月六日付

右通報に際しクレギー大使が有田外相に手  
交した覚書要訳

本省 6月6日後10時20分発

第一六八號

貴電第三二七號ニ關シ

本六日英國大使本大臣ヲ來訪シ本國政府ヨリノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ程錫庚暗殺被疑者ニ付テハ英國側ニ於テ十分ノ證據ナキ爲之ヲ引渡スコトヲ得ス然レトモ將來ニ關シテハ通常ノ逮捕狀發給ノ上ハ英國總領事ハ自己ノ認定ニ於テ「テロ」行爲ニ關係アリト認ムル者ハ凡テ之ヲ支那側地方官憲ニ引渡スヘク又比較的輕微ナル政治的犯人ハ之ヲ租界外ニ追放スヘク之カ爲所要ノ布告ヲ發スルコトナルヘキニ依リ前記程事件被疑者引渡問題ハ穩カニ收メタシト申出テタルニ付本大臣ヨリ我方トシテハ右被疑者ニ付テハ憲兵隊ニ於テ慎重之ヲ取調ヘ眞犯人タル心證ヲ十分得居リ又英國側立合ノ下ニ實地檢證モ濟マセ居ル次第ナルニ付至急其ノ引渡ヲ要望スル旨竝ニ若シ之ヲ引渡ササルニ於テハ從來モ良好ト言ヒ得サル天津ニ於ケル日英間空氣ヲ一層惡化スル惧アリ貴方ノ不引渡決定カ最後のノモノニ非サルヲ希望スル旨述ヘタル處大使ハ別ニ新タナル證據ナキ限り最後のノモノト認メサルヲ得スト述ヘ更ニ前言ヲ繰返シ殊ニ將來ノ問題ハ前述ノ通り取計フ次第ナル點ヲ強調シテ穩カニ本件ヲ解決スル様願ヒ度キモノナリト述ヘタリ仍テ本大臣ヨリ右

ニ依リ穩カニ收マルモノト約束ハ出來サルモ兎モ角御申出  
ノ次第ハ現地ニ通報スヘシト答ヘ置キタリ尙英國大使ハ貴  
地英國總領事ヨリモ同様貴官ニ申出テタル筈ナル旨述ヘ居  
タリ

北京上海ヘ轉電セリ

(付記)

天津英國租界問題ニ關スル件(程暗殺犯人引渡問題)

(昭和二四、六、二三、 亞一)

六月六日在京英國大使ノ有田大臣ニ手交セル

書キ物要譯

本國外務省ヨリノ訓令

將來ノ取扱ニ關シ英國總領事ハ本國政府ヨリ日本現地官憲  
ニ對シ「テロ」行動ニ關與シタリト英國總領事ニ於テ確認  
シタル者ハ通常ノ逮捕狀發給ト同時ニ地方支那官憲ニ引渡  
シ得ルコト及輕微ノ政治犯人ニ關シテハ租界ヨリ追放シ得  
ル旨通報スル許可ヲ得

「テロ」團員ナリトノ日本側證據ニ基キ抑留セラレ居ル四  
名ニ關シテハ英國政府ハ彼等カ日本官憲ニ引渡サルヘキ攬

亂罪ニ關與シタリトノ十分ノ證據ヲ未タ受領シ居ラサルモ  
ノト認メ居レリ英國政府ハ(將來ニ於ケル政治犯人ノ引渡  
又ハ追放ヲ命令スルコトニ依リ)既ニ日本側要望ヲ十分受  
諾シ居ルモ主張サレ居ル犯罪ノ證據ヲ未タ受領セサル者ヲ  
處刑ノ爲引渡スコトハ英國的正義ノ觀念ニ甚タシク悖ルモ  
ノナリ

編注 本文書の原文(英文)は省略。

なお、右原本には「程暗殺犯人ノ如ク犯行明白ナルモ  
ノニ付テスラ「證據無シ」ト言フ英國側ナレハ將來  
「證據アリト思フモノハ引渡ス」ト言フコトハ實行上  
何程ノコトヲモ意味セス(means almost nothing)」と  
の東亞局第一課曾欄益書記官の書き込みがある付箋あ  
り。

~~~~~

1491 昭和14年6月6日 在天津田代総領事より
有田外務大臣宛(電報)

程殺害事件の容疑者引渡しは物的証拠なく不
可能との英国側回答について

天津 6月6日後発
本省 6月7日前着

第三三二號

往電第三二七號ニ關シ

本六日本國政府ヨリ回訓到着セル趣ニテ「ゼ」總領事本官
ヲ來訪語ル所左ノ如シ

(イ)日本側ニテハ藍以下三名ヲ以テ程其ノ他ノ「テロ」犯人
ト主張セラルルモ右ハ單ナル自供ニ過キス他ニ何等物的
其ノ他有力ナル證據ノ提示ナキヲ以テ其ノ引渡ハ英國法
ニ照シ不可能ナリ

(ロ)之ニ反シ程暗殺事件前英租界内ニ於テ爆彈携帯ノ廉ニヨ
リ英側ニテ逮捕監禁セラルル元第九路軍參謀長崔外一名
ハ之ヲ引渡スヘシ而シテ之等二名ハ前記外三名ノ上官ナ
レハ右引渡ハ其ノ取調ニ於テ藍等ニ關スル更ニ有力ナル
證據ヲ發見シ得ル可能性アリ

(ハ)英工部局ニハ外二十數名ノ抗日分子逮捕監禁セラレ居ル
處之等分子ハ此ノ機會ニ情狀ニ依リ租界外ニ追放スル等
適當ノ措置ヲ執ルヘシ(但シ例ノ似警吾ハ別問題ナル旨
述ヘタリ)

(ニ)將來ノ租界内抗日分子取締ニ關シテハ今回ノ訓令ニ依リ
本官ハ抗日分子ニシテ確實ナル證據アル者ノ引渡シニ付
テハ其ノ都度訓令ヲ仰ク事ナク自己ノ裁量ニ依リ之ヲ支
那側ニ引渡ス權限ヲ得タルニ付先ツ近日中ニ嚴重ナル布
告ヲ發スルト共ニ租界内ノ警備ヲ一層嚴ニシ不穩分子ヲ
徹底的ニ彈壓スル意嚮ナリ



1492

昭和14年6月8日 在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津英仏租界封鎖措置の決定に至る軍側との
協議経緯について

天津 6月8日前発
本省 6月8日前着

第三三三號(至急、部外祕)

往電第三三二號ニ關シ

(欄外記入)
英國側カ我要求ニ應セサル場合如何ニ對處スヘキカニ付テ
ハ從來軍側トモ密接ナル聯絡ノ下ニ慎重考究シ來レル處豫
テ軍側ニテ計畫中ノ嚴重ナル交通管制限(檢問檢索)ニ付テハ
(イ)佛租界ハ總領事交代後全般的ニ我方ニ好意的協力ノ態度

1 封鎖実施に至る経緯

ヲ示シ來レルニモ拘ラス地理上之モ同時ニ包圍セサルヘ
カラス

(ロ)獨伊ヲ初メ直接無關係ナル米國人等ニ對シ多大ノ不自由
不便ヲ與フルコトナルヘク又

(ハ)例ヘハ食料品搬入ヲ阻止セサル建前ナリトスルモ運搬遲
延等ノ爲動モスレハ人道問題ナリ等ノ思ハシカラサル批
判ヲ生スル惧アリ

(ニ)第三國人及其ノ所有物ニ對シ通行證發給等適當緩和策ヲ
執ルトセハ支那人ニ對シ同様措置ヲ執リ得サル關係上外
支人ノ間ニ差別待遇ヲ與フルコトナリ宣撫工作上甚タ
面白カラス

(ホ)今回ノ目的ハ英側ヲ反省セシメ眞摯我方ニ協力セシメル
ニ在ル處其ノ目的達成ノ爲ニハ交通制限自然長期ニ亘ル
ヘキヲ以テ此ノ間我方ニ倦怠ノ氣分ヲ生セシメ結局龍頭
蛇尾ニ終ルノ惧アリ

トノ理由ニ依リ當館トシテハ寧口事茲ニ至レル以上何等拔
本の措置ニ出ツルヲ要シ之カ爲ニハ英租界當局カ抗日分子
取締ノ能力ナキノミナラス寧口之ヲ庇護スルカ如キ態度ナ
ルヲ理由トシ自衛上已ムヲ得ス一時英工部局ヲ專掌管理ス

ルコト前述ノ如キ惡影響ナキノミナラス其ノ效果ハ最モ直
接且顯著ナリ但シ或程度ノ兵力衝突ヲ覺悟スルノ要アルモ
我方ニ於テ眞ニ右決意ヲ固ムルニ於テハ事前ニ堂々英側ニ
通報シ實行ニ移ル場合先方ハ案外折レルヤモ知レストノ見
解ノ下ニ意見ヲ交換ヲ重ネ來レルモ軍側ニ於テハ中央ヨリ
(欄外記入二)
租界ニ對シ直接強力ヲ用フルヘカラサル旨嚴重ナル訓令ヲ
受ケ居ル趣ヲ以テ中央ノ方針ニ變更ナキ限り現狀ニ於テハ
不満足乍ラモ交通制限以外ニ方法ナキ由ニテ今般英側カ我
方ノ最後的要求ヲ拒否セルニ依リ約一週間ノ諸準備完了次
第即チ本月中旬頃愈々之ヲ實施スルコトニ決定セリ
北京、上海ヘ轉電セリ

(欄外記入二)

課長

軍側ノ意向ヲ確メオクコト(栗原東亜局長サイン)

(欄外記入二)

永井中佐ニ連絡セル處軍中央トシテハ

一、武力ノ行使ハ認メストノ方針ナリ

一、交通制限措置ハ差支ナシトノ意見ナリ

トノコトナリ 六月九日

1493

昭和14年 6月8日

在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津英仏租界封鎖措置の余儀なき旨を米仏独

伊各国へ事前説明について

天津 6月8日後発

本省 6月8日夜着

第三三七號

往電第三三二號ニ關シ

近ク實施ニ決定セル檢問檢査カ第三國側ニ對シ鮮カラス不便ヲ招來スヘキヲ以テ豫メ通告シ之カ諒解ヲ取付ケ置ク必要アリト認メラレタルヲ以テ米佛側ニ對シテハ本官自ラ獨伊側ニ對シテハ館員カ各總領事領事ヲ夫々往訪當方措置ノ餘儀無キ次第ヲ説明シ其ノ諒解ヲ求メ置キタルカ其ノ際ノ先方談話要領左ノ通御參考迄

一、米總領事ハ日本側ノ措置ハ已ムヲ得サル所ナルヘキモ米商ノ大部分カ英租界ニ居住シ且ツ米人所有ノ工場カ英租界内ニモ分散シ居リ英租界外トノ往復極メテ多キ現狀ニ

於テ其ノ被ムル不便ハ甚大ナルニ付一應本國政府ニ報告セサルヘカラサルモ其ノ際本國政府ニ對シ英國政府ヲシテ犯人引渡問題ヲ至急解決セシムル様態憑シ見ル積リナリト内話セリ

二、佛領事ハ本官カ貴國側從來ノ協調的態度ニ鑑ミ今回ノ包圍工作ヨリ除外シタキモ貴租界ノ地理的關係上甚タ氣ノ毒乍ラ除外シ得サル次第ヲ諒トセラレタシト述ヘタルニ對シ此ノ事アルハ既ニ覺悟シ居タル所ニシテ日本側ノ目標カ英國ニ在ル限り諦メサルヲ得スト述ヘタリ依テ本官ハ更ニ極祕ノ含トシテ米總領事ノ言ヲ内話シタル處自分モ之ヲ大使ニ報告スルト共ニ佛蘭西ノ「インフルエン」ヲ以テ成ルヘク英國側ノ態度ヲ變更セシムル様具申スヘシト述ヘタリ

三、獨伊兩總領事ハ孰レモ當方ノ豫告ヲ諒トシ唯出來得ル限リ自國人ニ便宜ヲ與ヘラレタキ旨希望セリ

北京、上海へ轉電セリ

1494

昭和14年 6月10日

有田外務大臣より
在天津田代總領事宛(電報)

程殺害事件の容疑者引渡し実現のため英国側に提出すべき証拠につき軍側と協議方訓令

第一七六號

本省 6月10日後9時40分発

本大臣發北京宛電報第四四九號(見当ス)會談ノ際英國大使ハ程暗殺犯被疑者四名ノ引渡問題ニ言及シ本件解決ノ途ハ該被疑者等ノ否認シ居レル自白ノ問題ト離レ日本側ニ於テ有セラルル證據ヲ提供スルニアリト述ヘタルヲ以テ本大臣ヨリ英國側ニ於テハ日本官憲ノ言明ト本件容疑者等ノ所言ト何レヲ信用セラルルヤト述ヘ日本官憲ノ言明ヲ信シ速ニ引渡アリタキ旨重ネテ要望シ置キタリ

本件ニ關シテハ英國側トシテ自白以外ニ何等カノ證據事實ノ提供ニ依リ引渡ノ名目ヲ得タシト考ヘ居ルヤニ看取セラるルニ就テハ證據事實ノ提供ニ付軍側ト連絡シ適宜考案ノ上可然措置セラレ度

尙後刻英大使ヨリ今朝ノ會談ニ於テ言落シタルカ追加シ度キコトアリトテ英國側ハ威嚇の措置ニ屈スルモノニ非ス從テ租界ニ對スル壓迫の措置ハ却テ逆效果ヲ齎スニ過キササルモノト思考スル旨非公式書面ヲ以テ申越セリ

北京、上海ニ轉電セリ

1495

昭和14年6月10日

有田外務大臣より
在天津田代総領事宛(電報)

天津租界への実力行使に関する中央の方針は
現地へ派遣される土田東亜局第一課長より詳
細聴取方訓令

別電

昭和十四年六月十日發有田外務大臣より在天

津田代総領事宛第一七五号

参考として上海租界対策処理方針回示についで

本省 6月10日後10時50分發

第一七四號(極祕、部外祕)

貴電第三三三號ニ關シ

強力行使問題ニ關スル中央ノ方針ニ關シテハ土田課長ヨリ詳細聴取アリ度ク尙上海租界對策ニ關シテハ曩ニ外、陸、海協議ノ結果別電第一七五號ノ通り處理方針ヲ決定シ現地ニ指示シアル次第ナルニ付御參照アリ度

別電ト共ニ北京ニ轉電シ本電ノミ上海ニ轉電セリ

(別電)

第一七五號(極秘)

本省 6月10日後10時50分発

一、上海租界今後ノ對策ニ關シテハ事變處理ノ根本精神ニ基キ合理ノ手段ニヨリ之ヲ解決ヲ期ス之レカ爲漸次左記(一)(二)ノ實現ヲ圖ルモノトス

(一)新情勢ニ應スル帝國勢力ノ發展ニ伴ヒ當然更改セラルヘキ諸般ノ租界ニ關スル案件ヲ公正妥當ナル手段ヲ以テ處理ス

(二)租界内ニ現存スル重慶政府ノ勢力ヲ芟除シ維新政府(又ハ上海市政府)ノ勢力ヲ以テ之ニ代フ

之レカ爲特ニ第三國ヲシテ維新政府(又ハ上海市政府)ヲ事實上承認セシムル如ク施策ス

二、本施策ノ實施ニ際シテハ特ニ外國權益ニ留意シ極力我對列國國際關係ノ惡化ヲ防止スルモノトス右ニ關聯シ我方ヨリモ進ンテ對第三國懸案ノ解決ヲ計ル如ク努ムルモノトス

三、本件施策ニ方リテハ現地及中央關係各機關ニ於テ密ニ連

繫ヲ保持シ一途ノ方針ノ下ニ處理セラルコト緊要ナルニ鑑ミ中央ハ現地各機關ヲシテ施策ノ統制ヲ期スル如ク指導スルト共ニ現地各機關ニ於テモ之レ等ノ施策ノ重要ナルモノニ關シテハ豫メ中央ニ連絡スルモノトス

~~~~~

1496

昭和14年6月10日  
有田外務大臣より  
在天津田代総領事、在厦門岡本(久吉)  
総領事代理宛(電報)

天津租界問題および鼓浪嶼問題に關するわが  
方意向を在本邦米國代理大使が照会について

本省 6月10日発

合第一二三〇號

本十日在京米國代理大使次官ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ天津及鼓浪嶼問題ニ關スル日本側ノ意向承知シ度旨述ヘタルヲ以テ次官ヨリ天津ノ問題ニ付テハ英國側方我方ノ要求ニ屬シ十分「コンシリエートリー」ノ態度ヲ採リサハスレハ事態ハ收マルモノト考ヘ居ル次第ナリト答ヘタル處代理大使ハ米國側方仲ニ入リテ英國側ヲ誘フヤウ仕向クルコトニ付如何ニ考ヘラルルヤト問ヘルヲ以テ次官ヨ

リ我方トシテハ米國側ニ頼ミハセサルモ在天津米國總領事ニ於テ英國側カ一層「コンシリエートリー」ナル態度ヲ探ルヤウ誘導セラルレハ「ヘルプフル」ナルヘシト述ヘ置キタリ

鼓浪嶼問題ニ關シテハ我方トシテハ現地交渉ニ任セ居ル處目下厦門總領事ハ打合ノ爲歸朝ノ途ニアリ詳細事情聴取シ打合ヲ爲スコトトナリ居レルカ同官歸任ノ上交渉ヲ繼續セシムルコトトナルヘシト述ヘタル處代理大使ハ其ノ間ニ何等情勢ノ變化ハアルマシキヤト問ヒタルヲ以テ格別ノ變化アリトハ思考セスト答ヘ置キタリ

本電宛先 天津、厦門

北京、上海、臺灣外務部長、香港ニ轉電セリ

~~~~~

1497 昭和14年6月10日 在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題に關し英國外務省極東部長が事

態緩和方要望について

ロンドン 6月10日後
本 省 6月11日前着

第六一八號

九日「ハウ」極東部長ハ岡本ニ對シ最近上海、厦門、天津、張家口ニ於テ發生セル事件ハ日英關係ノ危機ヲ生セシメ英政府トシテハ極メテ重大視シ居ル處就中天津ニ於ケル事態ハ最モ危險ト認ム元來英國トシテハ日支双方ニ對シ嚴正不偏ノ態度ヲ執ラサルヘカラサル立場ニ在ルカ天津英國租界内ニ於ケル犯人引渡問題ニ關シテハ犯罪ノ證據擧カレハ之ヲ特別裁判所ニ引渡スヘク又治安ヲ害スル惧アルモノハ之ヲ租界外ニ追放スル方針ヲ執リ居ル次第ニシテ右ハ公正妥當ナル態度ナリト確信シ居ル處日本側ハ過般租界内ニ於テ發生セル「テロ」事件ニ對シ單ニ犯人引渡ヲ要求スルモ英國租界側ノ希望スル何等カノ證據ヲ提出セサル爲遣リ方無キ次第ナリ然ルニ日本側ハ實力ヲ以テ英國側ヲ壓迫セントスルノ舉ニ出テツツアルハ遺憾ニシテ此ノ儘ニ推移セハ衝突ノ外無ク形勢憂慮ニ堪ヘス最近ノ諸事件ニ依リ英國各方面ノ對日感情ハ著シク刺戟セラレ來週月曜(十二日)ヨリ再開ノ議會ニ於テ極東問題ニ關スル質問通告ハ頗ル多數ニ上リ「バトラー」次官ハ之等應酬振リニ當惑シ居ル如キ實情ナリ議員中ニハ日本側ノ態度ニ顧ミ英國側モ報復手段トシ

テ通商壓迫等ノ舉ニ出ツヘシトノ强硬意見ヲ主張シ居ル者アリ事態改善ヲ見サル際ニハ政府モ之ヲ押ヘ兼ヌル羽目ニ至ルヲ惧レ居レリ就テハ東京及現地ニ於テモ交渉セシメ居レルモ何トカ日英兩國ノ修交上ヨリ觀テ形勢ヲ緩和スル様日本政府ニ於テ御盡力ヲ願度シト熱心ニ述ヘタルニ依リ岡本ヨリ英國側力從來ノ援蔣態度ヲ改メ日本側ニ進ンテ協力スルノ態度ニ出テサル限り今日ノ行詰リニ逢着スヘキハ豫々憂慮セラレ居リタル次第ナルカ何ヨリモ先ツ出先英國官憲ニ於テ事毎ニ日本側ヲ敵視シ日本側ノ行動ヲ阻碍スル態度ヲ改ムル事力肝要ナリ此ノ點篤ト考慮セラレタク御申出ノ趣ハ報告スヘシト答ヘ置キタル趣ナリ

1498 昭和14年6月12日 有田外務大臣より
在天津田代總領事宛(電報)

天津租界問題に関する声明發出は慎重措置方訓令

本省 6月12日後6時40分發

(欄外記入) 第一七七號(極秘、大至急)

英租界問題ニ關シ十一日貴地發同盟ハ近ク何等ノ「重大聲明」發セラルル旨報シ居リ右貴官、天津市長ノ布告等ヲ

指スモノト認メラルル處固ヨリ此ノ種布告ニ相當ノ決意ヲ表明スルノ要ハアルヘキモ今後英國側トノ話合ニ依リ犯人引渡問題解決ヲ圖ル途ヲ封スルカ如キ退ツ引キナラヌ字句表現等ハ之ヲ避ケラルルコト可然御如才無キコトト存スルモ爲念

尙政治犯人ハ別トシ刑事犯人ニ付テハ支那側ノ逮捕狀アレハ(新政權ヲ認ムルヤ否ヤノ議論ハ別トシ)英國側トシテハ證據ノ完否ヲ詮議立テスルコト無ク引渡サザルヲ得サルモノナルヤニ認メラルル處此ノ點現在如何ニ取扱ハレ居ルヤ承知致度又米佛側ニモ適當斡旋セシメ此ノ方法ニ依リ穩便ニ犯人ヲ引渡サシムル途ナキヤ考慮アリ度
北京、上海へ轉電セリ

(欄外記入)

大臣、次官ノ下命ニ依ル 曾禰

1499 昭和14年6月13日 在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界封鎖実施に際して軍側が英國の援蔣

態度に猛省を求めるとの談話発表について

付記 昭和十四年六月十四日付

有田外務大臣と在本邦クレギー英国大使との会談要領

天津 6月13日後発
本省 6月13日夜着

第三五一號

貴電第一七七號ニ關シ(天津英租界問題ノ件)

一、本官トシテハ何等聲明等ヲ發スル意圖ナク單ニ在留民ニ對シ英佛租界出入ニ付慎重ヲ期スヘキ旨告諭スル筈

二、軍側ニ於テハ本十三日記者團トノ「インタービュー」ニ於テ左記ノ要旨ノ談話ヲ發表セリ

英側カ罪狀明白ナル犯人ヲ證據不充分ナリト強辯シ其ノ引渡ヲ拒絶セル事實竝ニ斯ル不誠意ナル態度コソ總ユル抗日策謀ノ温床トナルモノナルヲ以テ軍ハ北支治安確保及軍自體ノ自衛ノ爲現情勢ニ於テ絶對必要且最少限度ノ方法トシテ英租界ヲ他ノ地區ヨリ隔絶スル爲必要ナル處置ヲ執ルモノナルコト更ニ本問題ハ犯人引渡ヲ契機トシテ惹起セラレタルモノナルモ右ハ單ニ直接的原因ニ過キ

ス從來ニ於ケル英國ノ援蔣政策ニ對スル日本朝野ノ憤激カ此ノ形式ニ於テ爆發セルモノナレハ既ニ情勢ハ單ナル犯人引渡ヲ以テ治ルヘキ性質ノモノニアラス軍ハ之ニテ英國ノ援蔣態度ニ猛省ヲ求ムルト共ニ政治經濟金融思想各方面ニ於ケル其ノ攪亂工作ノ根絶ヲ要求スルモノトシテ英租界當局カ百九十度ノ轉向ニ北支ノ新情勢ヲ認識シ衷心ヨリ日本ト協調シ東亞ノ新秩序建設ニ協力スルニ到ル迄矛ヲ納メサルヘシ

三、尙從來當方ニテ逮捕セル犯人ハ政治的タルト共ニ刑事犯人タル者多ク其ノ都度證據ノ有無ニ關シ問題ヲ惹起セル次第ナルカ曩ニ英總領事本官來訪ノ際此ノ點再三確メタルニ「ジェ」ハ英側ヲ納得セシムルニ足ル證據ハ之ヲ必要トスルモノニシテ唯從來ハ證據充分ナル場合ニモ之カ引渡ノ爲ニハ倫敦ニ請訓ノ要アリタルモ今後ハ倫敦ニ請訓ノ要ナクナリタル次第ナリト答ヘ又田中「ハーバート」會談ノ際ニモ後時證據有無ノ問題ニ付意見ヲ交換シタルカ「ハ」ハ此ノ點ハ明瞭ナラサルニ付「カー」大使ニ請訓スヘシト述ヘタル次第モアリ(回答未着)旁從來ノ例ニ徴シ英側ニテハ右根本方針ヲ確定シ居ル譯ニアラサ

ル様推察セラレ遽ニ先方ノ言ニ信ヲ措ク能ハサルノミナ
ラス前項軍聲明後半ノ如ク軍ニ於テ既ニ事態ハ犯人引渡
問題ヲ離レ英側ノ援蔣方針轉換ニ係ルモノト爲シ居ル以
上引渡ニ關スル主義上ノ話合ノ成否ハ最早問題トナラサ
ル次第ナリ

北支、上海へ轉電セリ

(付記)

おぼえ

(昭十四、六、十四)

六月十四日在京英國大使有田大臣ヲ來訪會談。英大使ヨリ
十三日ノ天津軍聲明ハ政府ノ意見ト看做シ差支無キヤヲ執
拗ニ訊ネタルニ依リ大臣ハ然ラハ申スカ強ヒテ自分ノ明答
ヲ求メラルレハ夫レハ却ツテ英國政府ヲ困ラスコトナル
ヘシト應酬セル處英大使ハソレ以上訊ネサリキ

(澤田大使談、奥村記)



1500

昭和14年 6月13日

有田外務大臣より
在天津田代總領事宛(電報)

在本邦米國代理大使が天津租界問題での日英

幹旋のため容疑者引渡しを審査する混合委員
会の設立案をわが方へ打診について

本省 6月13日後8時30分発

第一八〇號(至急)

往電合第一二三〇號ニ關シ

本十三日在京米國代理大使次官ヲ來訪英國側ニ當リ見タル
處天津英國總領事ハ本國政府ヨリ新タナル訓令ヲ受ケタル
模様ニテ其ノ内容ハ例ノ四名ノ容疑者引渡ニ付英日及第三
國人ノ三名ヨリ成ル混合委員會ヲ組織シテ本件證據事實ヲ
審査シ其ノ結果日本側ニ引渡スヘキモノナラハ引渡スコト
トスルニアル趣ナリ就テハ右考案ハ日本政府ニ於テ取上ケ
得ラルヘキモノナリヤ承知致度シト述ヘタルニ付次官ヨリ
先ツ第三國人ヲ交ヘタル混合委員會ノ「アイデア」ナルモ
ノカ元來「アクセプタブル」トハ思ハレス且現地ニ於テハ
既ニ二次ノ措置ヲ執ル最後ノ瞬間ニ至リ居リ其ノ準備ニ忙殺
サレ居ル狀況ナレハ右ノ如キ提案カ現地ノ事態ニ副フモノ
ナリヤ疑問ナリト述ヘ尙英國總領事カ右ノ如キ訓令ヲ受ケ
居ルナラハ何故ソレヲ執行セサルヤ米國側ニ於テ幹旋セン
トナラハ米國總領事ニ於テ右執行ヲ爲サシムル様仕向クル

コトカ幹旋ノ一トモナル次第ナラスヤト突込ミタル上何レニスルモ今日ノ事態ニ於テハ東京ニ於テ之ヲ取上ケ現地ニ指圖スルコトハ出来スト答ヘタル處代理大使ハ「イニシアテイーヴ」ハ勿論英國側力取ルヘキモノナルニ付英國大使館側ニモ其ノ旨話スヘキモ右申出ノ次第ヲ田代總領事ニ傳達願ハレマシキヤト述ヘタルニ付「インフオーメイション」トシテ傳達スルコトニハ異存ナシト答ヘ置キタリ
北京、上海、厦門、香港ニ轉電セリ

1501

昭和14年6月13日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

容疑者引渡しに關し再検討を行うので天津租界の封鎖実施を延期方英國政府要請について

ロンドン 6月13日後発

本省 6月13日夜着

第六二八號(大至急)

十三日朝英國政府ヨリ天津ニ於ケル犯人引渡問題ニ付英國側ノ從來知ラサリシ犯人ニ關スル新事實發見セラレタル爲再考スヘキニ依リ不取敢明十四日ヨリ實施ノ租界封鎖ハ見

合セラレタキ旨本使ヘ申入アリタリ(午後一時二十分)
天津、北京、上海へ轉電セリ

1502

昭和14年6月13日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國政府による天津租界封鎖延期要請の詳細
につき報告

ロンドン 6月13日後発

本省 6月14日前着

第六二九號(至急)

往電第六二八號約報

十三日午前求ニ依リ岡本「ハウ」極東部長ヲ往訪シタル處同部長ハ「ハリファクス」外相ノ命ニ依リ至急御傳ヘスル次第ナリト前置キシ天津ニ於テ愈英國租界封鎖強行セラルルコトトナラハ日英關係ニ重大ナル衝擊ヲ與フルコトトナルヲ憂慮スル處今回ノ犯人引渡要求ニ付テハ日本側ニテ確タル證據ヲ提示セラレサル爲英國側トシテ引渡ヲ爲シ得サル立場ニアリタルモノナル處昨十二日在天津英國總領事ヨリノ報告中ニ從來英外務省ニ知レ居ラサリシ一點アリ右ハ

新タナル事實ニ付之ヲ至急取調ノ上事實分明スルニ於テハ引渡問題ヲ再考スヘキニ付夫レ迄數日間ノ餘裕ヲ與フル様不取敢明十四日より封鎖實施ヲ延期スル様本使ヲ通シテ日本政府ノ考慮ヲ希望スト述ヘタリ依テ岡本ヨリ元來斯ル事件ニ關シ確タル證據ノ提示ヲ求ムルコトハ無理ナル場合アルヘキハ既ニ指摘シタル通りナルカ今回ノ新事實トハ如何ナルコトナリヤト反問セル處右ハ且下日本側ヨリ引渡ヲ要求セラレアル容疑者カ劇場ノ前ニテ武裝シ居リテ犯人ノ逃走ヲ掩護セルコト分明セリトノ情報ナリ右カ明白トナラハ勿論日本側ニ引渡シ得ヘシト思考スト答ヘタリ

1503

昭和14年6月13日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國外務省が天津租界問題の対応に苦慮して
いる模様につき報告

ロンドン 6月13日後発

本省 6月14日前着

第六三一號(至急、極秘)

往電第六二八號ニ關シ

當地外國新聞記者カ外務省筋ヨリ得タル印象ニ依レハ英國ハ犯人引渡ニ結局同意スル意嚮ナルモ何トカシテ體面ヲ保タントスルニ苦心シ居ル模様ニシテ之カ爲中立國ヲ加ヘタル委員會ノ斡旋ニ依ル形式トシタキ意嚮ヲ有スルカ如キ印象ヲ受ケタル趣ナリ尙岡本ニ對スル「ハウ」ノ談話中ニモ「クレイギー」ハ日本政府筋ヨリ在天津米國總領事ノ斡旋ヲ求メテハ如何ト示唆セラレタルカ英國政府ハ右ノ如キコトカ出來レハ歡迎スル所ナリト述ヘ居タル由ナリ本使ハスルコトハ事態ヲ複雑ニスルモノナルニ付一切不適切ナルニ付直接日本側ト接觸ヲ保チテ問題ヲ解決セシムルコト然ルヘシト岡本ヲシテ「ハウ」ニ對シ強ク注意セシメ置キタリ

1504

昭和14年6月14日

在北京堀内大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界封鎖の目標に軍側が経済的要求を含
めた事情について

付記 昭和十四年六月十三日付

北支那方面軍命令方軍作命戌第一一號

北京 6月14日後発
本省 6月14日夜着

第七〇四號(部外極秘、館長符號扱)

往電第六九七號二關シ

軍側ニ於テハ今回ノ檢問ヲ抗日「テロ」犯人ノ引渡ニノミ
關聯セシムル時ハ英國側カアツサリ引渡ニ應スル場合檢問
ノ理由ナクナリ租界工作トシテノ效果乏シトシ此ノ際更ニ
經濟的目標ヲ織込ミ英佛兩租界當局ニ對シ法幣流通禁止及
聯銀券流通、租界内銀行檢査、竝ニ租界内現銀ノ引渡特ニ
交通、中國兩銀行ノ出資部分タル千二百五十萬圓ノ現銀引
渡等ニ對スル協力ヲ要求シ若シ應セサルニ於テハ更ニ強度
ノ經濟封鎖ヲ行ヒ且何等カノ切掛ヲ促ヘ實力ニ依ル現銀引
渡ヲ斷行セントノ意嚮ナリシヲ以テ當方係官ヨリ今回ノ檢
問實施前ヨリ佛國側ノ態度相當好轉ノ徴アリ或意味ニ於テ
英佛ノ共同戰線ノ步調合ハストモ見得ヘキ際大部分カ佛租
界ニ在ル現銀引渡ヲ要求セハ假令佛國側態度好轉セリトハ
言ヘ本件ニ關スル從來ノ經緯ニ鑑ミ我方要求ヲ直ニ容ルヘ
シトモ想像セラレス却テ英佛ヲシテ共同戰線ヲ猶強化セシ
ムルコトトナルヘシ更ニ現銀ノ實力接收ハ短時間ニ爲シ得

サル所ニシテ少クトモ五十臺ノ「トラツク」數百人ノ苦力
ニテ約三日ヲ要スル趣ナルカ其ノ間英佛側トノ衝突ハ當然
豫想スヘク右ニ關シテハ中央ノ意圖必スシモ茲ニ在ラサル
ヤニ思考セラレ旁々經濟的要求受諾ヲ檢問廢止ノ條件ト爲
スコトハ慎重考慮ノ要アル旨說キタルモ軍側ニテハ此ノ機
ヲ逸シテハ到底經濟的要求ヲ滿タス機會ナカルヘク今回ノ
檢問ニ經濟の要素ヲ織込ムコトハ軍司令官ノ強キ希望ニテ
實力行使ニ至ル迄ノ段階ハ當然之ヲ履ムヘキカ其ノ間ニ英
佛側ハ當方要求ヲ容ルル可能性アリ何レニスルモ最後ノ肚
ハ充分ニ定メ居リ先般武藤少將上京ノ際斯ル手段ニ出ツル
ノ餘儀ナキニ至ル場合アルヘキ旨述ヘタルニ對シ軍中央部
令官ノ決裁ヲ經軍命令ヲ發スル意嚮ナル旨述ヘ居リタル趣
ナリ

上海、天津へ轉電セリ

(欄外記入)

六月十五日永井中佐ハ此ノ點ノ如キ事實ナシト内話セリ

(付記)

方軍作命戊第一一號

北支那方面軍命令

六月十三日十七時 北京方面軍司令部

一、方面軍ハ天津英佛租界當局ヲシテ反省齟齬ノ上抗日共產活動ノ彈壓、對日經濟攪亂行爲ノ停止等ヲ實現シ明朗北支ノ建設ニ協力セシムル如ク對租界積極工作ヲ強化セントス

二、第二十七師團長ハ豫メ準備セル積極工作ヲ速カニ再開シテ租界内抗日共產分子ノ活動ヲ封止スルト共ニ關係機關ヲ指導シテ租界内ノ反日經濟活動ヲ阻止スルニ努ムヘシ
第二十七師團長ハ租界ニ對スル具體的工作ノ實施ニ關シ天津憲兵隊ヲ指揮スヘシ

三、支那駐屯憲兵隊ハ前項第二十七師團ノ積極工作ニ協力スヘシ

支那駐屯憲兵隊司令官ハ天津憲兵隊ヲシテ租界ニ對スル具體的工作ノ實施ニ關シ第二十七師團長ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

四、航空兵團ハ天津ニ於ケル飛行場施設ノ一部ヲ又北支那方

面軍兵站部ハ天津ニ於ケル兵站施設ヲ成ルヘク廣ク夫々開放シテ第二十七師團ノ積極工作ニ協力スヘシ

五、細部ニ關シテハ參謀長ヲシテ指示セシム

北支那方面軍司令官 杉山 元

下達法

第二十七師團ヘ要旨ヲ電報セル後一括シテ印刷送付ス

指示

方軍作命戊第一一號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、今次工作ノ目標トシテ英佛租界當局ヲシテ實現セシムヘキ事項概ネ左ノ如ク之カ要求提示ハ方面軍ニ於テ統一シ關係機關ヲシテ實施セシム

1、租界内ニテ逮捕セラレタル抗日共產分子ヲ速カニ臨時政府側ニ引渡スコト

2、李漢元等著名ナル抗日的職員ヲ工部局ヨリ驅逐スルコト

3、臨時政府ノ通貨政策ニ協力シ特ニ聯銀券ノ流通普及並舊法幣ノ流通禁止ニ協力スルコト

4、租界内支那側銀行ノ内容檢査取締ニ協力スルコト

- 5、租界内ノ現銀検査特ニ中國、交通兩銀行ノ聯銀出資額タル千二百五十萬元ノ租界外搬出ニ協力スルコト
 - 6、日本側及臨時政府側ニ對シ治安警察ノミナラス經濟警察ニ關スル租界内協同搜查ヲ認ムルコト
 - 7、日本側及臨時政府側ノ政策ニ反スル施設、言動、刊行物、宣傳文書等ノ取締ヲ嚴ニスルコト
 - 三、工作實施ハ概ネ左ノ要領ニ據リ第二十七師團主トシテ之ニ任シ憲兵隊、航空兵團及兵站部ハ密ニ之ニ協力スルモノトス
 - 1、第二十七師團策定ノ對英佛租界特別警備計畫ニ基キ租界内外ノ交通管制、通行入ノ檢問、出入貨物ノ檢索ヲ實施ス
 - 2、右ト併行シ租界ニ對スル積極的經濟工作準備ヲ促進ス
- 之カ爲關係機關ヲ指導シテ租界内ニ在ル日本系商社ノ所有スル物資ヲ租界外ニ搬出セシムルハ勿論外國商社ノ所有スル物資ヲ吸引セシムルニ努メ且日本系銀行商社ノ租界外引上ヲ促進スルト共ニ租界外ニ於ケル碼頭倉庫等ノ諸施設利用ニ努ムル等積極的經濟工作發動後

日本側ノ租界外ニ於ケル經濟活動ニ支障ナカラシム

- 3、租界當局ニシテ誠意ヲ示ササル時ハ追テ指示スル所ニ從ヒ積極的經濟工作ヲ發動シ租界ヲシテ困惑セシムル工作ヲ併用ス

- 4、本工作間租界内ノ協同搜查ヲ頻繁ニ續行シテ抗日共產分子ノ檢舉ニ努ムルト共ニ關係機關ヲ指導シテ外國商社ヲシテ我方ニ協力セシムル如ク誘引スルニ努ム
- 5、本工作實施ニ伴ヒ租界外ノ治安維持ニ萬全ノ注意ヲ拂フト共ニ租界内攪亂ヲ施策ス

昭和十四年六月十三日

北支那方面軍參謀長 山下 奉文

編 注 昭和十四年六月二十七日付の東亜局第一課受領印あり。

~~~~~

1505

昭和14年6月14日  
在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題に關する英國内の論調は相当刺激  
激的であり英國側宣傳振りに注意を要する  
旨意見具申

第六三九號

ロンドン 6月14日後発  
本 省 6月15日前着

往電第六二九號ニ關シ

一、「ハウ」ノ説明ニモ拘ラス外務省情報部ハ英國カ新ニ發見セル事實ニ基キ犯人引渡ヲ再考スル旨ヲ提案セルコトヲ何等外部ニ洩ラサスシテ中立國(米國)ヲ入レタル混合委員會ヲ設ケテ引渡ヲ決定シタキ意嚮ヲ宣傳ニ努メ居レリ事件ニ對スル英國側ノ宣傳振及新聞ノ調子ハ累次電報ノ通り相當刺戟のナリ

二、英國側ハ當方ニ對スル往電第六三一號申出及約束ニ拘ラス天津ニ於テハ何等此ノ種ノ申出ヲ爲サス却テ混合委員會ノ提案ヲ爲シ以テ益々事態ヲ惡化スル結果ヲ來シタル様新聞電報ニテ觀取セラルル處右ハ英國側ノ重大責任ト考ヘラル

三、當方ニ於テハ元來本件ハ地方的問題ニシテ日英現地當局間ニ直接處理セシムヘキモノナルニ拘ラス當地ニ於テ事態ヲ擴大セントスルカ如キ宣傳ノ行ハレツツアルハ甚タ心外トスル所ナリ抑本事件ハ當方ヨリ英國政府ニモ豫々

注意ヲ喚起セルカ如ク支那ニ於ケル英國官民ノ日本ニ對スル甚タシキ非友誼的態度ニ其ノ源ヲ發スルモノニシテ右態度ハ本國政府ノ公ニ執リタツツアル政策ヲ反映スルモノナルヲ以テ此ノ不正ナル態度ヲ改ムルコトカ先決問題ナリトノ從來ノ趣旨ヲ今回ノ機會ニ於テ繰返シ居レリ御參考迄  
尙又英國側ニ於テハ前記ノ通り極力宣傳ニ努メ居レルニ付我方ニ於テモ宣傳振ニ付テハ慎重注意ト努力トヲ拂フノ要アリ

1506

昭和14年6月14日 在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界封鎖に対する米國國務省の反応振り報告

ワシントン 6月14日後発  
本 省 6月15日後着

第五一四號

天津英佛租界交通制限ニ關シ十四日ノ各新聞ハ十三日ノU・P及A・Pノ現地電報ヲ第一面ニ大見出ニテ掲ケ租界ノ地圖迄入レ問題ノ解説ヲ試ミ居ルモノ鮮カラサル處概シ

テ我方聲明ノ要點ヲ其ノ儘傳ヘ我立場ノ理解ヲ容易ナラシムル結果ヲ呈シ居レリ

國務省ニ於テハ最大ノ關心ヲ以テ本件成行ヲ注視シ米國ノ權益ハ租界居住米人四百名(領事館管轄區域内總計千二百名)投資額百七十萬弗、土地會社、染物工場、織物工場、銀行及自動車會社夫々ニヲ算スル外貿易商相當多數アリ之等商社ノ昨年度取引總額二千六百萬弗(約半額ハ Chase 及 National City 兩銀行ノ取引高)ニ達シ居ルニ鑑ミ日本官憲ヨリ米國領事ニ對シ米國權益ヲ尊重スヘキ旨通告アリタルモ恐ラク右權益ニモ累ヲ及ホスニ至ルヘシト觀居ルモノノ如シ尙十三日記者會見ニ於テ國務長官ハ一層明確ナル現地報告接到スル迄意見ヲ留保スルノ態度ヲ示シタル趣ナリ紐育ニ暗送セリ

1507

昭和14年6月15日

在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

# 天津英仏租界における検問検査の実施状況報告

天津 6月15日後発

本省 6月15日夜着

第三五八號

十四日早朝ヨリ實施シタル検問検査ノ實施狀況及之カ反響左ノ通り

一、實施狀況

檢檢所通行者ハ北堤ノ檢問所ヲ除キ大部分ハ華人ニシテ邦人及第三國人ハ僅少旭街檢問所ノ十四日ノ通行人員ハ概略三千人平時一日通行推定數五萬人ノ六分見當ナリ物資ノ搬入ハ嚴重検査ノ爲著シク制限セラレ檢問所筋ヨリノ搬入ハ殆ト不能ノ狀態ヲ呈シ居レリ

二、英佛租界内ノ華商ハ閉店休業ノ狀態ヲ呈シ物資搬入不能及一部商人ノ賣惜ミ等ノ爲十五日ニ至リ主トシテ食料品ハ急騰シ生瓜一本二十仙卵一箇十仙ト言フ高値ヲ示シタルニ付英佛租界内ノ華商ハ聯合會ヲ開催シ代表者ヲ派シ租界當局ニ對シ速ニ日本側ノ要求ニ應シ圓滿解決ヲ要請シタル趣ニテ英佛當局ハ萬一ヲ慮リ警察官全部武裝總動員警備シツツアリ

十五日正午英國側ハ馬廠道檢問所ニ守備兵二十名及工部局巡捕十名ヲ派シ檢問ヲ行ヒ午後二至リ更ニ兵十名(脱?)警備兵ハ間モナク引揚ケタリ(脱?)工部局巡捕二十名ヲ増

員シ威嚇的態度ニ出テタリ然ルニ一方租界内ハ居住華人  
カ事態ノ惡化ヲ懸念シ外出ヲ差控ヘ居ル模様ニテ料理店  
飲食店劇場等人足附カス寂寥ノ感ヲ呈シタリ  
北京、上海ヘ轉電セリ

1508

昭和14年6月15日 有田外務大臣より  
在天津田代總領事宛(電報)

天津租界問題における現地軍の対英仏具體的  
要求事項につき査報方訓令

付記 昭和十四年五月二十九日、北支那方面軍司令

部作成

「天津英佛租界ニ對スル工作要領案」

本省 6月15日後9時30分發

第一八三號(極秘、部外祕)

往電第一七四號ニ關シ

本件處理ニ關シテハ關係方面トモ連絡シ中央ノ方針ヲ確定  
スル爲折角考究中ノ處今後ノ租界對策殊ニ英佛側ニ對シ提  
出スヘキ要求事項ノ具體案等ニ關シ貴地軍側ニ於テハ如何  
ナル意向ヲ有シ居ル次第ナリヤ貴見ト共ニ至急回電アリ度

尙十二日陸軍側ヨリ北支方面軍司令部作成(五月二十九日  
附)ノ天津英佛租界ニ對スル工作要領案ヲ送付越シ當方意  
見ヲ求メ來レルニ依リ之カ審議ノ必要上軍中央トシテハ如  
何ナル意向ヲ有スルヤ軍側ニ連絡シタル處軍中央トシテハ  
右案ハ今次ノ交通管制措置斷行前ノ作成ニ係ルモノニシテ  
今後ノ對策ニ關シテハ現地ヨリノ意見具申ヲ俟ツテ考慮ス  
ルコトトシ度キ考ナル模様ナリ  
北京、上海ニ轉電セリ

(付記)

天津英佛租界ニ對スル工作要領案

昭和十四年五月二十九日 北支軍司令部

第一、方針

天津英租界ニ對シ成ルヘク速カニ積極工作ヲ開始シ以テ日  
本及臨時政府ニ協力スルノ實ヲ擧ケシム

第二、工作目的

一、治安肅正ノ見地ヨリ租界ヲシテ其内部ノ抗日共產運動ヲ  
取締ラシムルト共ニ政治的、經濟的ニ日本及臨時政府側  
ニ協力セシム

## 1 封鎖実施に至る経緯

之力爲

1. 日本憲兵ノ租界内協同挿査<sup>(模倣)</sup>ヲ認ムルコト

2. 日本憲兵ノ租界碼頭ニ於ケル監視検査ヲ認ムルコト

3. 逮捕セラレタル抗日共產分子ヲ臨時政府側ニ引渡スコト

4. 李漢元ノ如キ著名ナル抗日的職員ヲ工部局ヨリ驅逐スルコト

5. 工部局ニ日本人職員又ハ顧問ヲ入ルルコト

(以上既ニ要求中)

6. 日本及臨時政府側ノ政策ニ反スル施設、言動、刊行物、宣傳文書等ノ取締ヲ嚴ニスルコト

7. 中國、交通兩銀行ノ内容検査ヲ認ムルコト

8. 租界内ノ現銀検査特ニ中國、交通兩銀行ノ聯銀出資額タル千二百五十萬元ノ租界外搬出ヲ認ムルコト

9. 聯銀ノ通貨政策ニ協力シ少クモ之ヲ妨害セサルコト等ヲ要求ス

二、兩租界ヲシテ政治的、經濟的ニ疲弊枯渴セシメ遂ニ之ヲ返還セシムルコト

### 第三、實施要領

一、關係機關ニテ從來ノ主張(前項目のノ一)ヲ執拗ニ反覆スルト共ニ臨時政府ヲシテ強硬ナル抗議ヲ呈示セシム

二、此間租界ニ對スル經濟封鎖準備ヲ促進ス

租界外碼頭倉庫ノ増強、日本人引揚ノ徹底、租界内支那人ノ登録、反日情報ノ的確ナル蒐集、關稅機關ノ移轉、謀略準備等

三、好機ヲ捉ヘ租界内支那人ヲ引揚ケシムルト共ニ交通制限ヲ開始シ逐次之ヲ強化シテ經濟封鎖ヲ實施シ又各種嫌カラセ工作ヲ併用ス

四、右實施ニ伴ヒ租界外ノ治安維持ニ萬全ノ注意ヲ拂フト共ニ租界内攪亂ヲ企圖ス

五、右各項ノ實施ニ方リ要スレハ兵力ヲ租界周邊ニ集結ス又現銀検査ヲ租界當局ニ於テ妨害スルカ如キ場合ニ要スレハ一部兵力ヲ以テ之ヲ強行スルコトアリ

### 備考

國際情勢ノ變轉ニ際シテハ臨機之ニ對處ス

~~~~~

1509

昭和14年6月16日 在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津居留邦人が租界問題の全般的解決を強く
要望している旨報告

天津 6月16日後発
本省 6月16日夜着

第三六四號

當地居留民各方面ハ六日英國側ヨリ我方要求ヲ全面的ニ拒否シ來ルヤ此ノ際斷乎租界問題ノ全般的解決ヲ計ルヘシトナシ殊ニ英佛租界居住邦人ハ客年九月以來殆ト全部租界引揚ヲ斷行シ多大ノ不便不利ヲ忍ビツツ今日ニ及ヒ居ル次第ナレハ前回ノ如キ檢問檢索ニテハ無效有害ナルコト既ニ經驗濟ノコトニテモアリ旁今回ハ必スヤ有效適切ナル或種ノ強力行使セラレ極メテ短期間ニ一舉ニ租界問題ノ解決ヲ心私カニ期待シ居タルモノノ如ク再ヒ檢問檢索ノ實施ヲ見ルヤ大イニ失望ノ色ヲ示シタルモ前回ト異リ今回ノ實施ハ極メテ嚴重ニシテ目下ノ所效果ヲ擧ケツツアルヤニ見受ケラルニ付一般ニ落着キヲ見セ居レリ尙本官トシテハ引續キ輕舉妄動セサル様指導ヲ與ヘ居レリ

北京、上海へ轉電セリ

1510

昭和14年6月20日
在北京堀内大使館参事官より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題要求事項に関する臨時政府の英
仏大使館宛通告案について

付記 昭和十四年六月十五日、興亜院華北連絡部作成

「在天津英佛租界當局ニ對スル臨時政府ノ通告ニ關スル件」

北京 6月20日後発
本省 6月20日夜着

第七二五號(館長符號扱)

⁽¹⁾ 本官發天津宛電報

第八五號

臨時政府ノ英佛大使館宛公文

「民國二十六年十二月十四日、本政府ノ成立以來臨時政府ニ於テハ北支民心ノ安定ト大衆ノ安居樂業トヲ以テ施政ノ根元ト爲シ友邦日本ト相提携シテ東亞新秩序建設ノ爲不斷ノ努力ヲ續ケ來レル處在天津英佛租界當局ニ於テハ今尙東亞ニ於ケル新事態ヲ認識セス天津租界ヲシテ重慶

政權ニ依ル北支治安破壊ノ前衛陣地、經濟謀略ノ策源地
タラシメ之カ爲北支二億ノ民衆ニ對シ治安上、經濟上不
當ノ苦痛ヲ招來セシメ居ルハ臨時政府ノ斷シテ默過シ得
サル所ナリ

二、租界ハ元文物制度等ノ相違ニ基キ外國人ノ居住地域トシ
テ特定セラレ右外國人間ノ諸事項ヲ其ノ自治ニ委シタル
ニ止マリ絕對的行政ノ自由ヲ有スルモノニアラス即チ外
國租界ハ同租界ヲ包含スル地域ヲ支配スル行政權ト施策
ニ順應シ一般ノ安寧秩序ノ保持ニ協力スヘキコトヲ租界
存立ノ條件トス依テ

若シ租界カ周圍地域ノ治安經濟其ノ他一般秩序攪亂ノ根
據地トナリ又右攪亂者ニ庇護ヲ與フルニ至リテハ右ハ租
界ノ本質ヲ逸脱スルモノナリ

三、今次日支事變ノ勃發以來既ニ二箇年ノ歲月ヲ閱シ蔣介石
政權ハ四川ノ一隅ニ蕞爾タル地方政權ニ順落シ天津地方
ハ素ヨリ北支ニ對シ何等實力ヲ及ホシ得ス北支ノ安寧秩
序ハ一ニ本政府ニ依ツテ維持増進セラレ居ル現實ノ事態
ヲ無視シ前陳ノ如キ態度ヲ繼續スルニ於テハ是即チ本政
府竝ニ二億民衆ニ對シ敵意ヲ有シ其ノ福祉ヲ破壊シテ顧

ミサルモノト言ハサルヲ得ス本政府ハ北支ノ治安保持及
大衆ノ福祉増進ノ爲茲ニ不取敢應急の措置トシテ英佛租
界當局ニ對シ左記ノ項目ノ要求ヲ提出ス本政府ノ意ノ在
ル所ヲ諒トセラレ速ニ本要求ヲ受諾シ以テ治安竝ニ民政
ニ關スル臨時政府ノ施政ニ順應セラレン事ヲ要望ス

追テ本件五項目ハ現下急迫セル事態ニ鑑ミ臨時政府トシ
テ要求スヘキ最小限度ノ條件ナル處租界當局ニ於テ右ヨ
シモ受諾セス依然トシテ蔣介石政權ニ依ル北支攪亂行爲
ヲ容認シ臨時政府ノ施政ニ背馳スル行動ヲ繼續スルニ於
テハ本政府ハ問題ノ根本ニ遡リ所要ノ處置ヲ講スルノ已
ムヲ得サルニ至ルヘキコトヲ附言ス

四、要求事項

(一) 租界内「テロ」及共產分子ヲ速カニ臨時政府ニ引渡ス
コト

(二) 臨時政府ノ通貨政策ニ對スル協力特ニ租界内ニ於ケル
舊法幣ノ流通禁止竝ニ現銀ノ搬出ニ關シ臨時政府ニ協
力スルコト

(三) 臨時政府ニ依ル租界内支那側銀行、錢莊及商社ノ檢査
取締ニ協力スルコト

(四)臨時政府ノ政策ニ違反スル施設、言行、出版物等ヲ嚴重取締ルコト

(五)以上四項目ノ履行ヲ確認シ且今後ニ於ケル取締ノ實效ヲ期スル爲租界内ニ於テ共同取締ヲ實施スルコト

編 注 本電報第七二五号は別電となっているが、その本電は見当らない。

(付 記)

在天津英佛租界當局ニ對スル臨時政府ノ通告ニ關スル件

(四、六、二五、華北連絡部)

(欄外記入)

一、臨時政府ヲシテ英佛租界當局(英佛各總領事)ニ對シ大體別紙ノ如キ趣旨ノ通告ヲ發セシム(通告ノ内容ニ就イテハ臨時政府側ノ意向ヲモ斟酌シ更ニ調整ヲ加フ)

一、本件通告ハ從來ノ例ニ鑑ミ握潰シトナルヘキ公算多キニ付通告發出後適當ノ時期(一週間ト豫定ス)ヲ見計ヒ臨時政府ヲシテ通告ノ内容ヲ發表セシムルト共ニ政府ノ決意ヲ表明スル聲明ヲ出サシメ以テ租界封鎖工作ニ關スル我方今後ノ立場ヲ有利ナラシムルカ如ク措置スルモノトス

一、租界封鎖工作ハ右臨時政府ノ通告並ニ聲明ト步調ヲ併セ漸次其ノ内容ヲ強化シ行クモノトス、租界工部局ノ接收、行政權ノ回收等第二段ノ工作ハ本件工作ト併行シ別ニ研究ス

(欄外記入)

六月十九日
土田課長携行

編 注 別紙は在北京堀内大使館参事官より有田外務大臣宛電

報第七二五号とほぼ同文のため省略。

~~~~~

1511  
昭和14年6月24日  
在北京堀内大使館参事官より  
有田外務大臣宛(電報)

天津租界問題要求事項を臨時政府より英仏側  
へ通告について

北 京 6月24日後発  
本 省 6月24日夜着

第七四四號(館長符號扱)

本官發天津宛電報第八五號ニ關シ

英佛租界當局宛臨時政府ノ通告ハ廿一日附ニテ廿二日溫市長ヨリ交付シ一方廿三日臨時政府ヨリ當地英佛大使館ニ送附セル由

天津、上海へ轉電セリ

~~~~~

1512

昭和14年6月25日 在北京堀内大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界封鎖の實際措置に当たつては仏國側
へは手加減を加ふる旨を通報して同國の協力
を誘致するよう田代總領事へ要請について

北京 6月25日後発
本省 6月25日後着

第七四六號(極秘、館長符號扱)

本官發天津宛電報

第九〇號

本官發大臣宛電報第七四四號ニ關シ

本件申入ハ臨時政府ノ立場上英佛側ニ對シ文句其ノ他同様ノ形式ヲ執リタル次第ハ往電第八四號ニ依リ御承知ノ通り

ナル處先方ニ對スル實際上ノ當リハ英佛ニ依リ手加減ヲ加フル要アリ軍側始メ當地關係各方面共貴官ニ於テ佛國側ニ對シ冒頭ノ事情篤ト御説明ノ上同國側ノ協力ヲ誘致スル様御盡力相成度ク切望シ居ルニ付右然ルヘク御措置相煩度シ大臣、上海へ轉電セリ

~~~~~